



ユニプレス株式会社

2022年度第2四半期決算報告





2022年度第2四半期決算について

2022年度見通しについて

中期経営方針

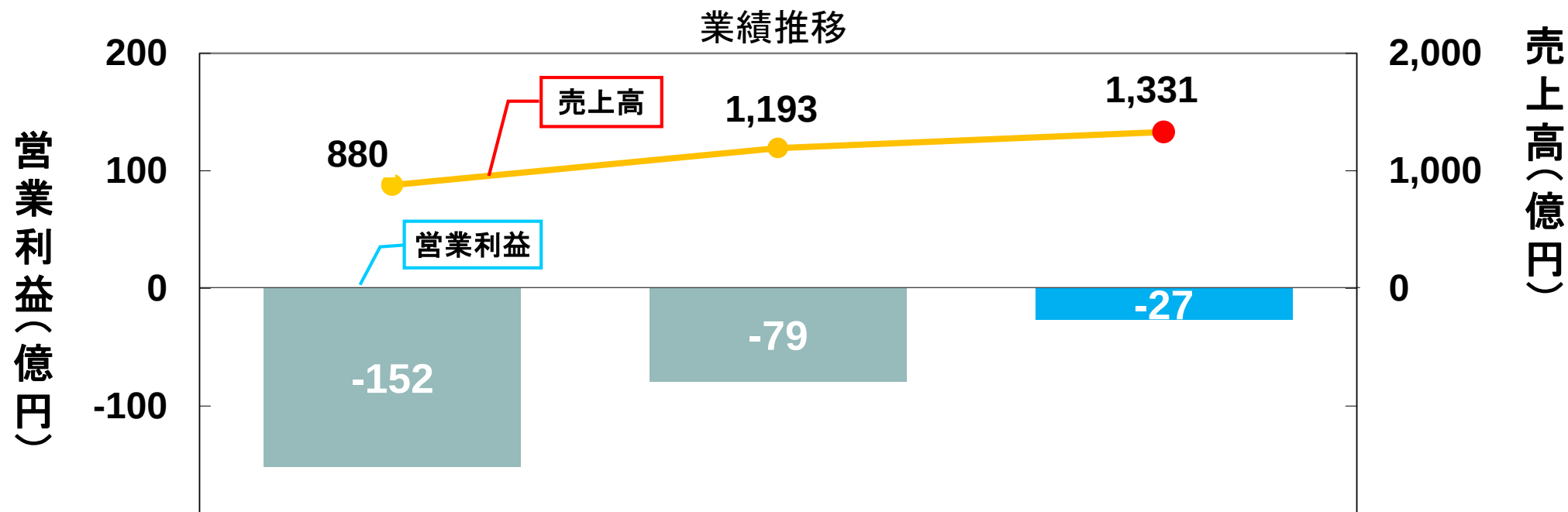


2022年度第2四半期決算について

半導体の世界的な供給不足による得意先の減産の影響は残っているものの為替換算影響等により、売上高は1,331億円と増収。また、営業利益は27億円の損失となったものの合理化効果により、前期に比べ大幅に改善。

2022年度第2四半期連結決算サマリー

- 売上高は、前年同期比138億円増収（11.6%増）
- 営業利益は、前年同期比52億円の改善



	20年度 第2四半期	21年度 第2四半期 (A)	22年度 第2四半期 (B)	(B) - (A)
売上高	880	1,193	1,331	+138
営業利益	-152	-79	-27	+52
経常利益	-148	-72	-14	+58
親会社株主に帰属 する四半期純利益	-137	-77	-18	+59

製品群別連結売上構成

(億円)

	2021年度第2四半期		2022年度第2四半期		売上高 増減額	構成比 増減
	売上高	構成比	売上高	構成比		
車体プレス製品	1,006	84.3%	1,151	86.5%	+145	+2.2%
トランスミッション製品	163	13.7%	156	11.7%	-7	-2.0%
樹脂製品	14	1.2%	14	1.1%	0	-0.1%
その他	10	0.8%	10	0.7%	0	-0.1%
合計	1,193	100%	1,331	100%	+138	—

得意先別連結売上構成(日産自動車関連)

- メキシコ日産および欧州日産向け売上の減少等により、構成比は1.5%減少 (億円)

	2021年度第2四半期		2022年度第2四半期		構成比 増減
	売上高	構成比	売上高	構成比	
日産自動車関連 小計	957	80.2%	1,048	78.7%	-1.5%
東風汽車	238	19.9%	237	17.8%	-2.1%
日産自動車	112	9.4%	210	15.8%	+6.4%
北米日産	150	12.6%	178	13.4%	+0.8%
ジャトコ(海外拠点含む)	126	10.6%	113	8.5%	-2.1%
メキシコ日産自動車	120	10.1%	103	7.7%	-2.4%
欧州日産自動車	117	9.8%	100	7.5%	-2.3%
日産車体	40	3.4%	45	3.4%	0.0%
ルノー日産インディア	17	1.4%	29	2.2%	+0.8%
マレリ(海外拠点含む)	14	1.2%	19	1.4%	+0.2%
タイ日産自動車	16	1.3%	9	0.7%	-0.6%
鄭州日産	1	0.1%	1	0.1%	0.0%

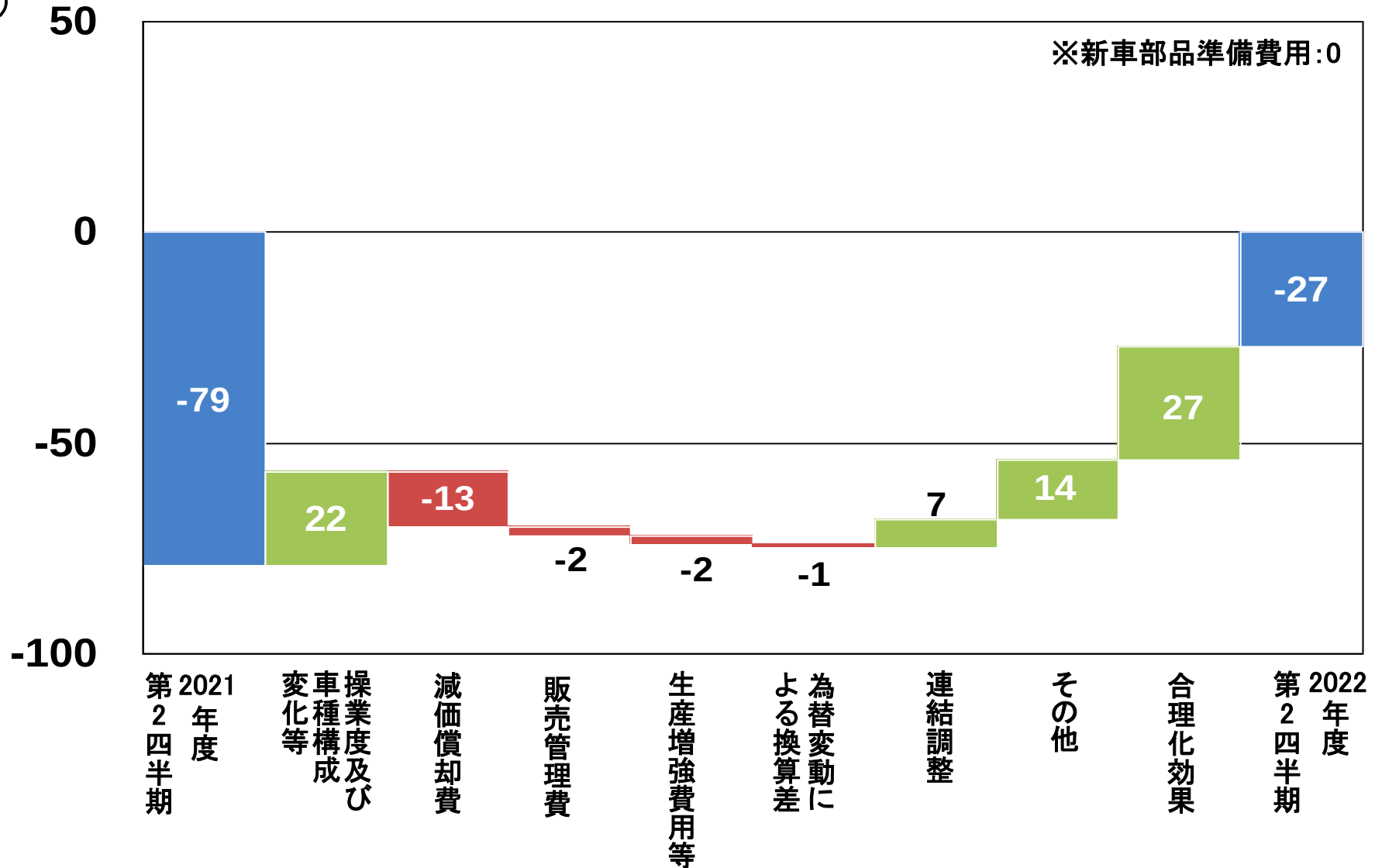
得意先別連結売上構成(日産自動車関連以外)

- 三菱自動車およびルノー向け売上の増加等により、構成比は1.5%増加 (億円)

		2021度第2四半期		2022度第2四半期		構成比 増減
		売上高	構成比	売上高	構成比	
日産自動車関連以外の得意先 小計		236	19.8%	283	21.3%	+1.5%
内)ホンダ	米国ホンダ	22.9	1.9%	34.7	2.6%	+0.7%
	メキシコホンダ	11.6	1.0%	13.5	1.0%	0.0%
	本田技研工業	9.1	0.8%	10.7	0.8%	0.0%
	インドネシアホンダ	4.2	0.4%	8.9	0.7%	+0.3%
	英国ホンダ	16.8	1.4%	-	-	-1.4%
三菱自動車工業(海外拠点含む)		25.0	2.1%	46.5	3.5%	+1.4%
PSA		23.7	2.0%	27.5	2.1%	+0.1%
ルノー		14.2	1.2%	26.4	2.0%	+0.8%
アイシン(海外拠点含む)		14.0	1.2%	14.1	1.1%	-0.1%
マツダ	マツダ	8.2	0.7%	10.1	0.8%	+0.1%
	メキシコマツダ	3.3	0.3%	3.7	0.3%	0.0%
ダイナックス(海外拠点含む)		8.6	0.7%	8.5	0.6%	-0.1%
SUBARU		4.2	0.4%	5.3	0.4%	0.0%
スズキ(海外拠点含む)		1.7	0.1%	2.6	0.2%	+0.1%
日野自動車(海外拠点含む)		0.7	0.1%	1.3	0.1%	0.0%
NSKワーナー		2.3	0.2%	1.2	0.1%	-0.1%
いすゞ自動車(海外拠点含む)		1.3	0.1%	1.2	0.1%	0.0%
UDトラックス		1.1	0.1%	1.1	0.1%	0.0%
武蔵精密工業		1.2	0.1%	0.5	0.1%	0.0%
ダイハツ工業		1.8	0.2%	0.0	0.0%	-0.2%

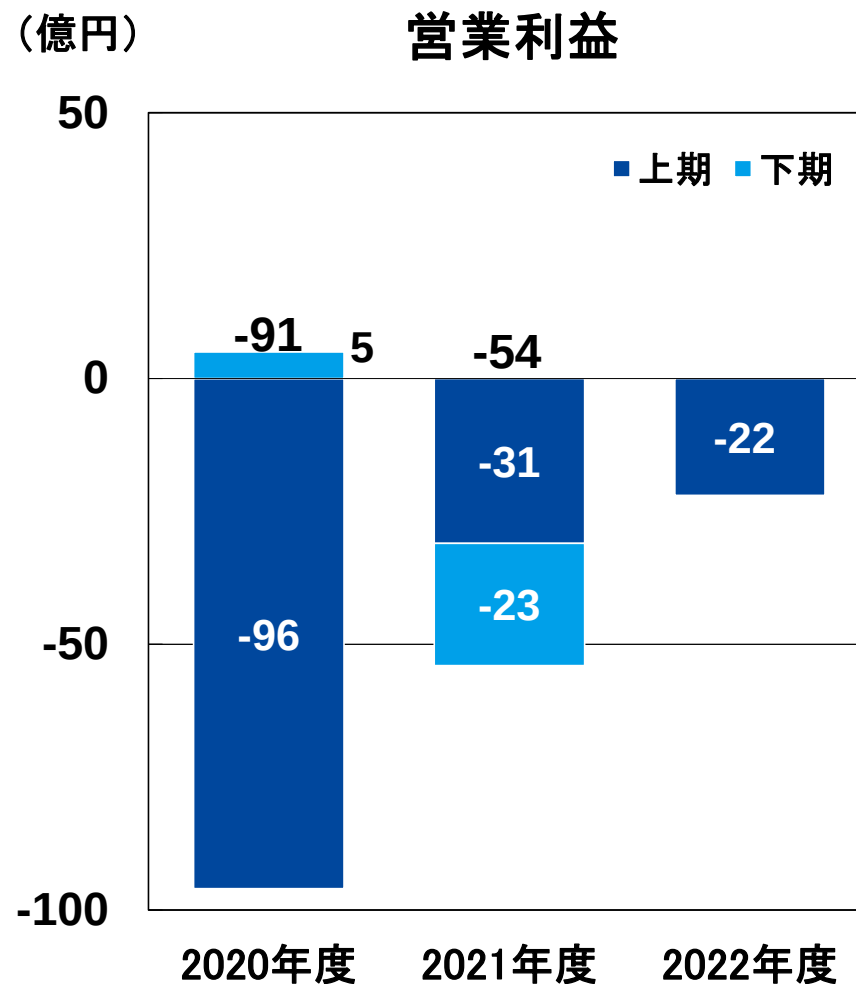
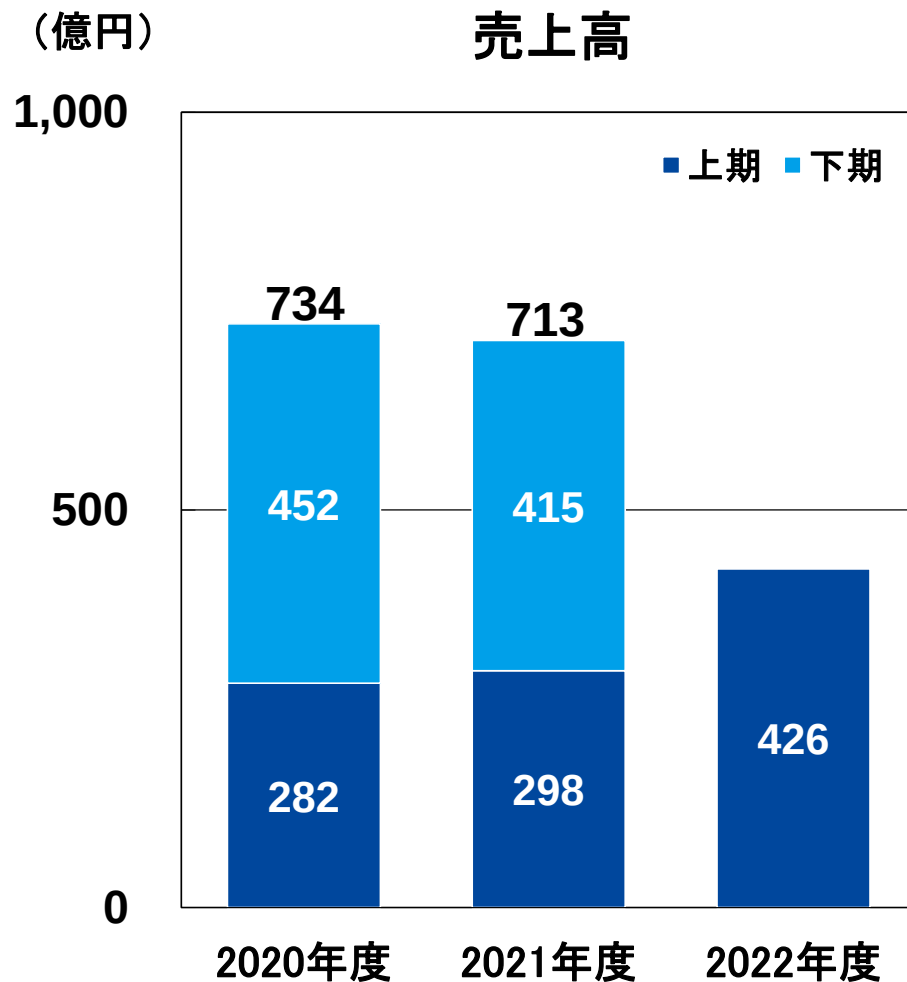
営業利益の増減要因

(億円)



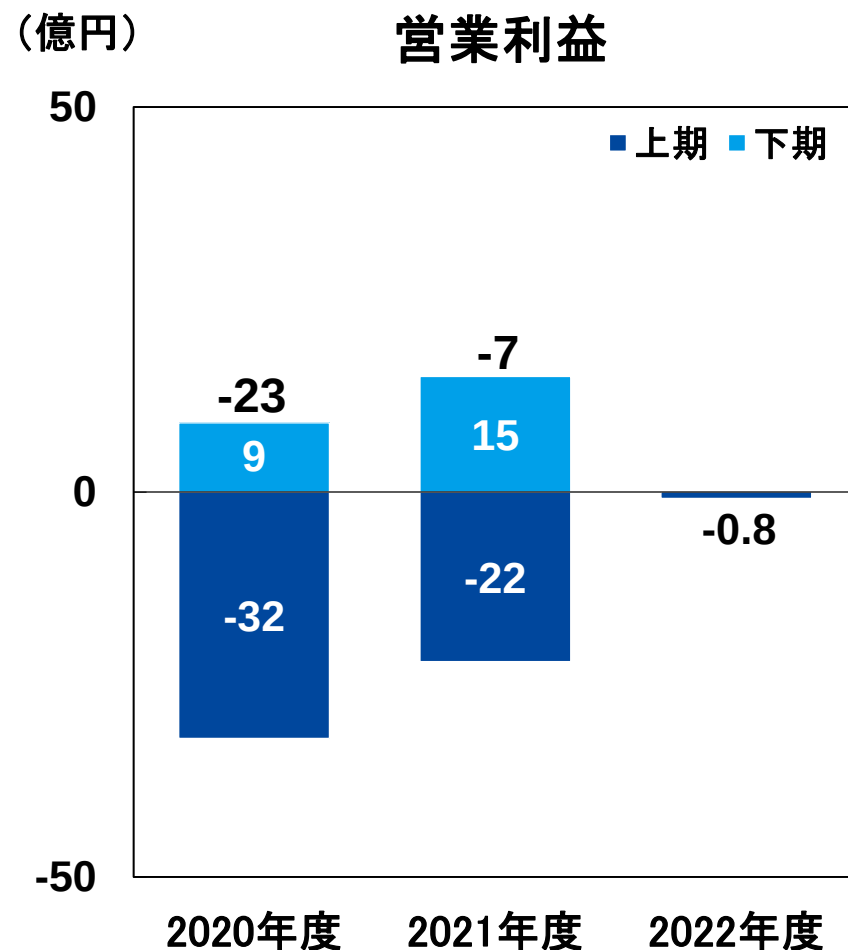
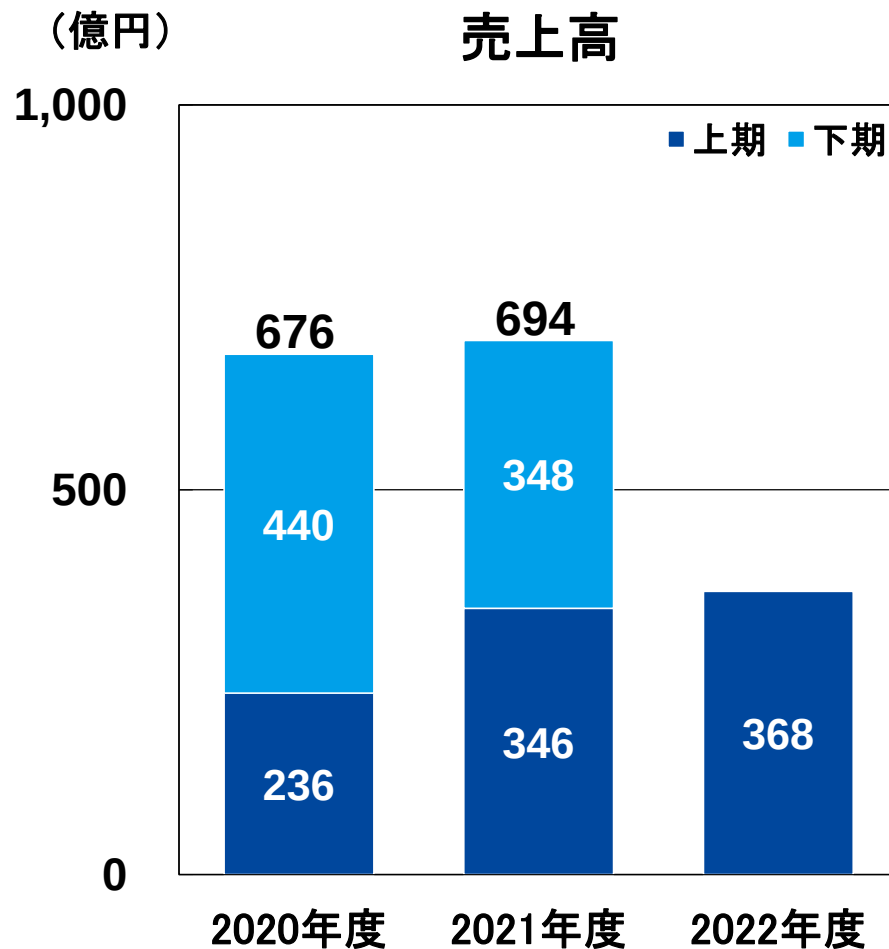
地域別売上高・営業利益(日本)

- 売上高は、半導体供給不足による影響が軽減し、42.9%の増収
- 営業利益は、新車部品立上げ準備費用等の負担があったこと等により22億円の損失



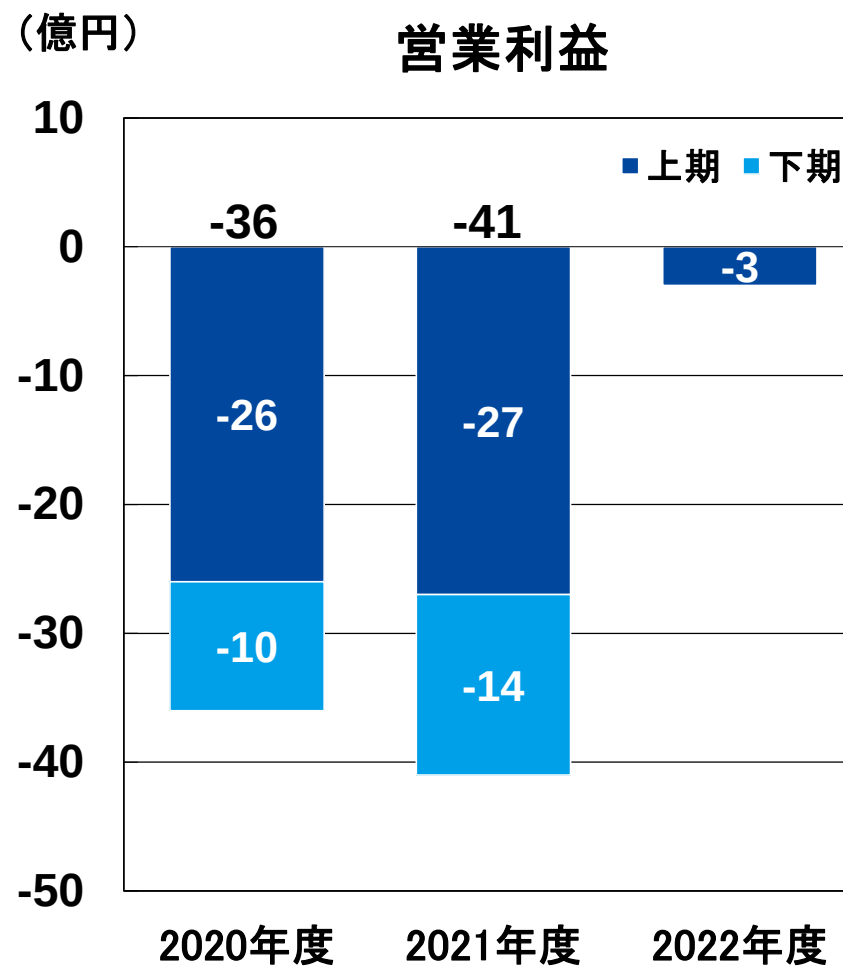
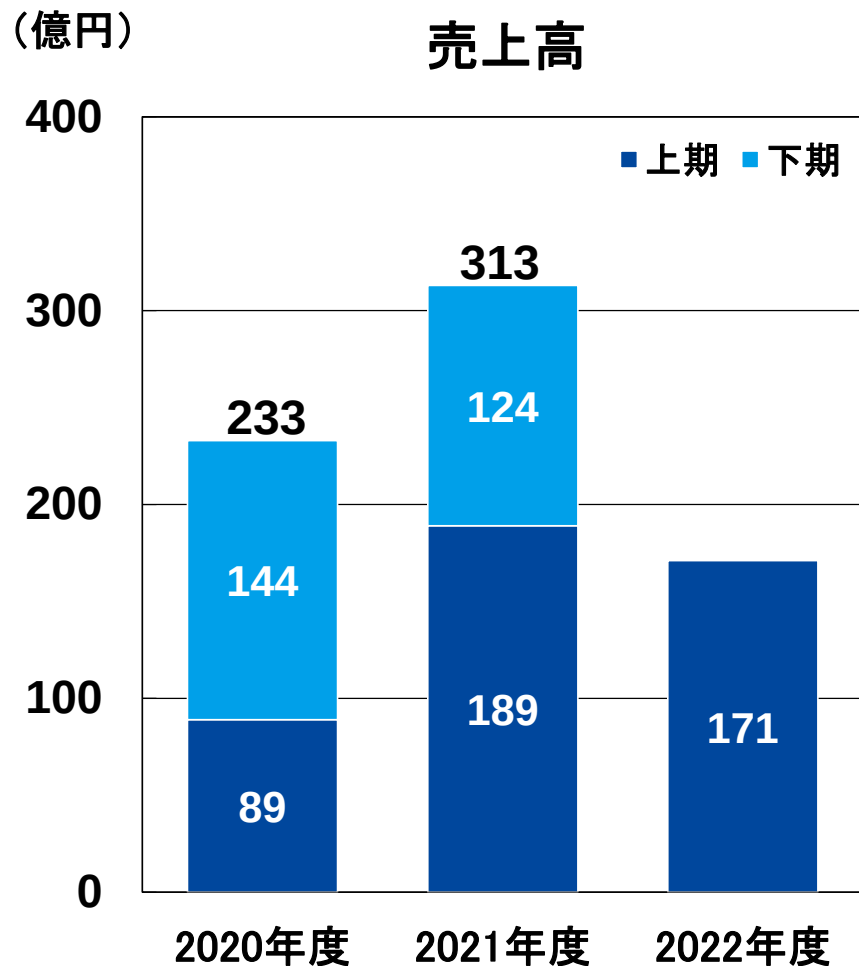
地域別売上高・営業利益(米州)

- 売上高は、為替換算影響等により、6.3%の増収
- 営業利益は、合理化効果等により21億円の改善



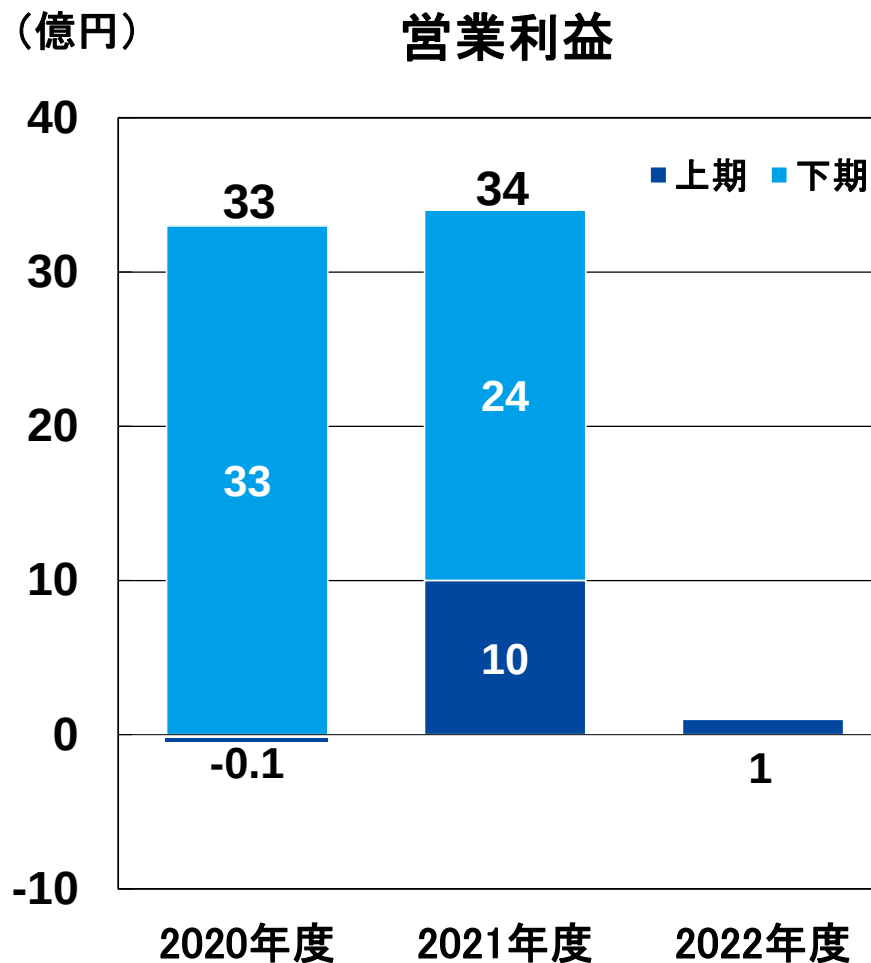
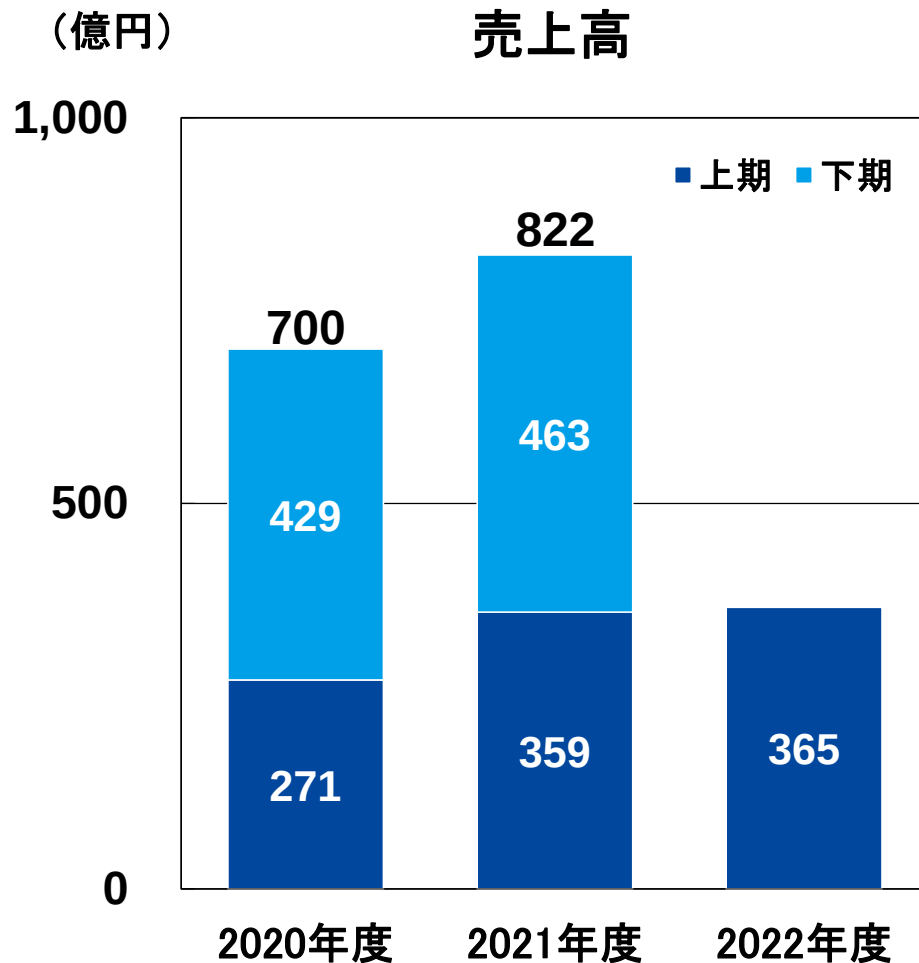
地域別売上高・営業利益(欧州)

- 売上高は、為替換算影響等はあったものの、金型・設備の販売減少により、9.5%の減収
- 営業利益は、合理化効果等により24億円の改善



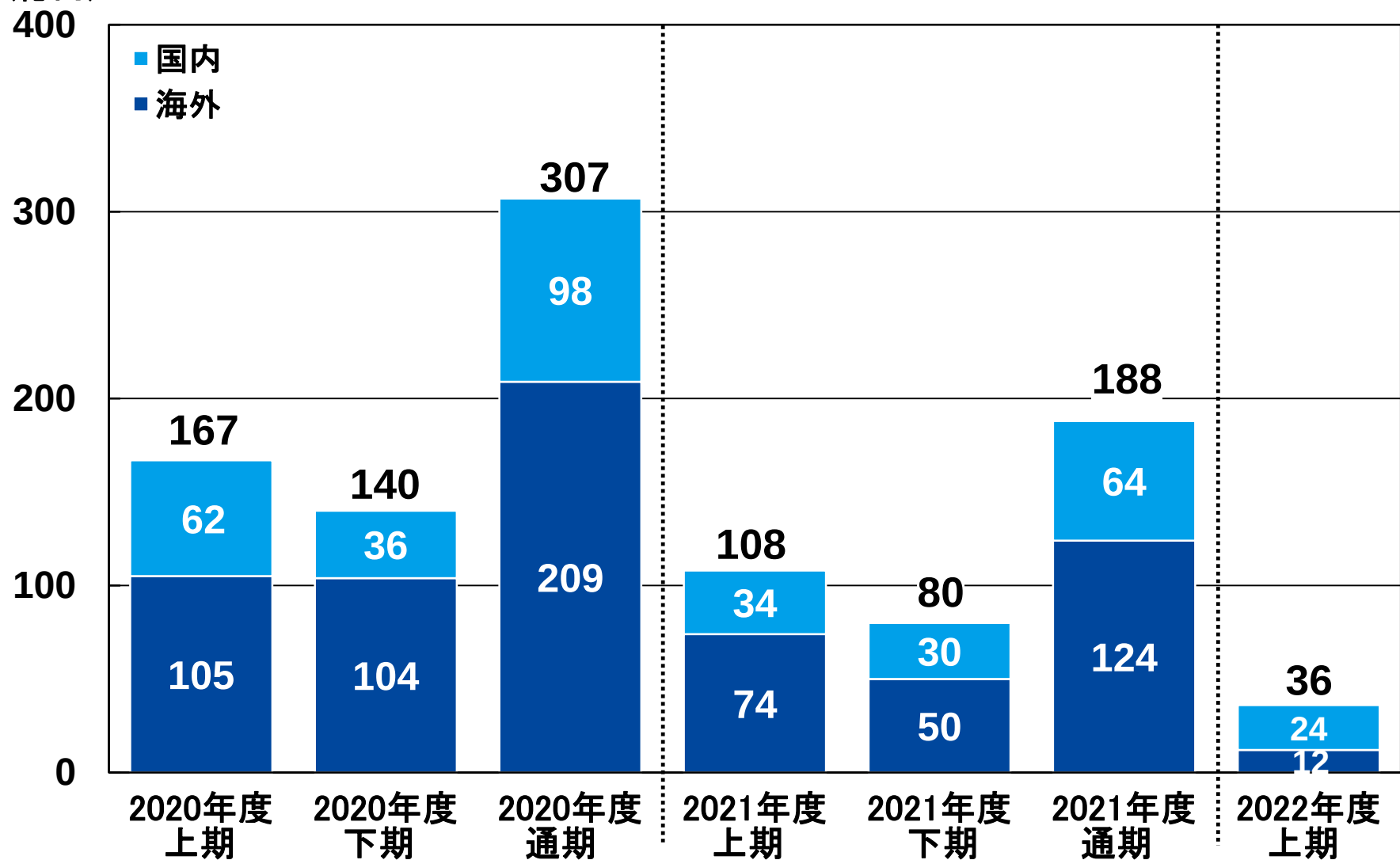
地域別売上高・営業利益(アジア)

- 売上高は、上海ロックダウン他、得意先の減産影響はあったものの、為替換算影響等により、1.7%の増収
- 営業利益は、操業度影響により9億円の減益

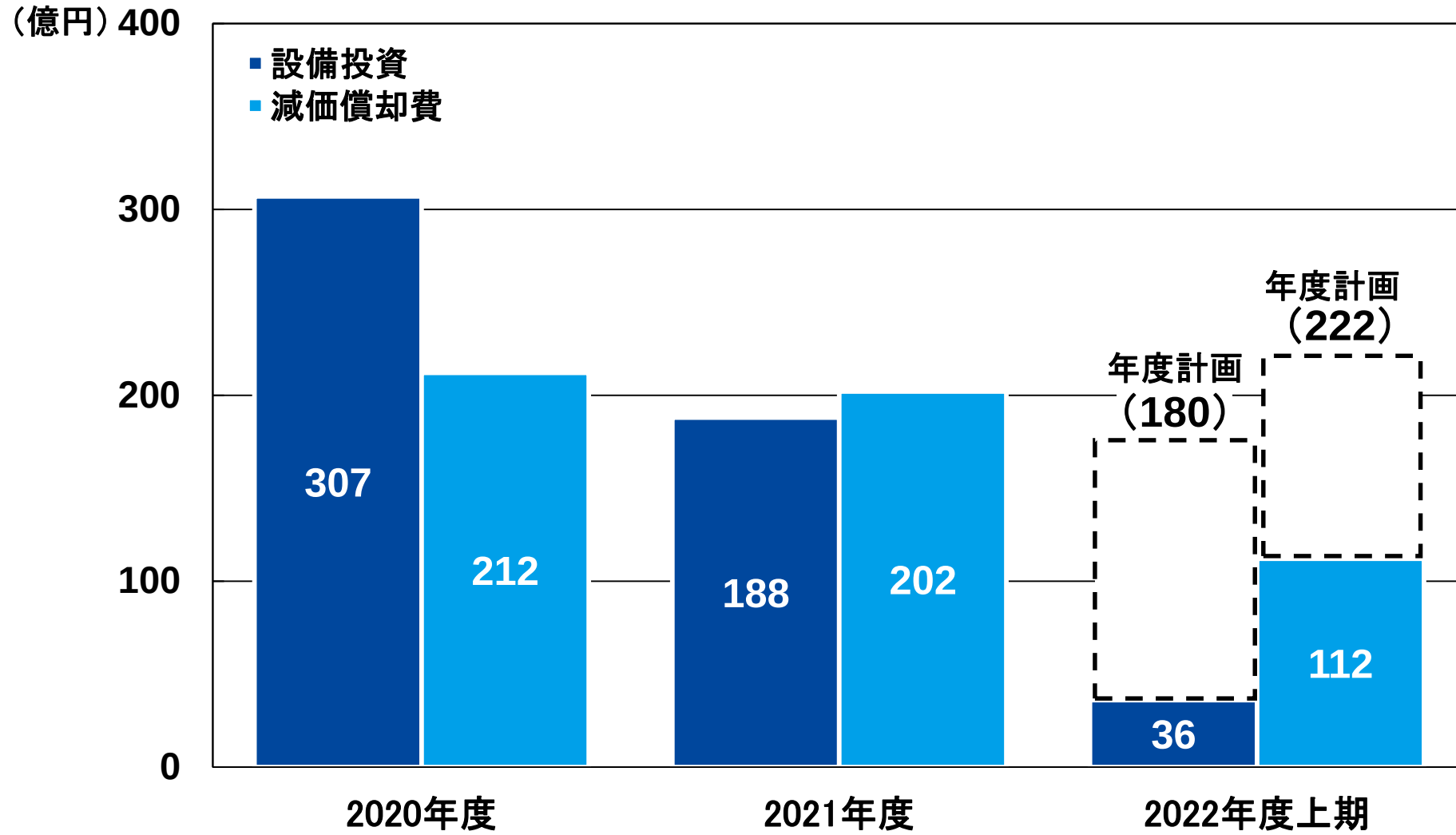


設備投資推移

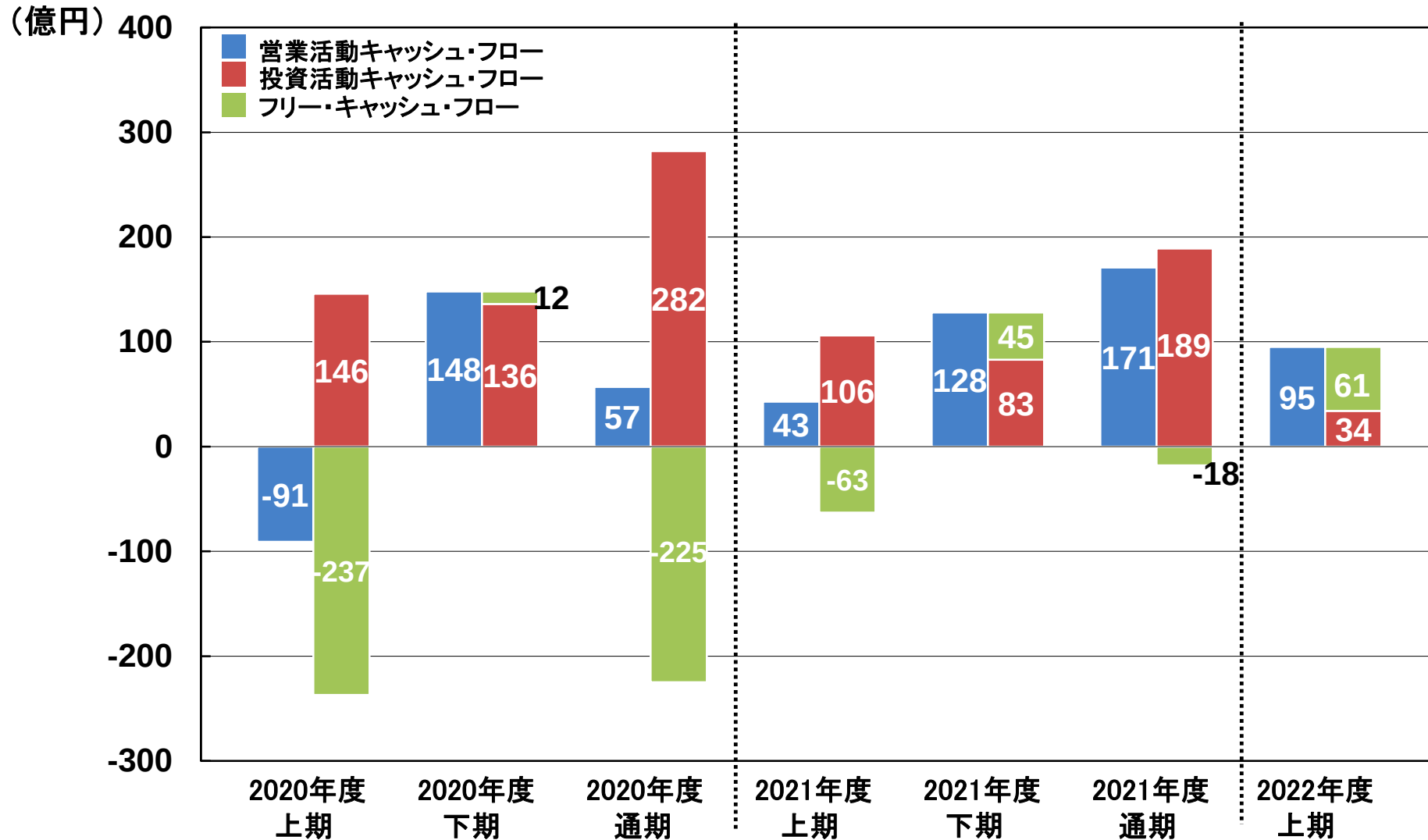
(億円)



設備投資・減価償却費推移



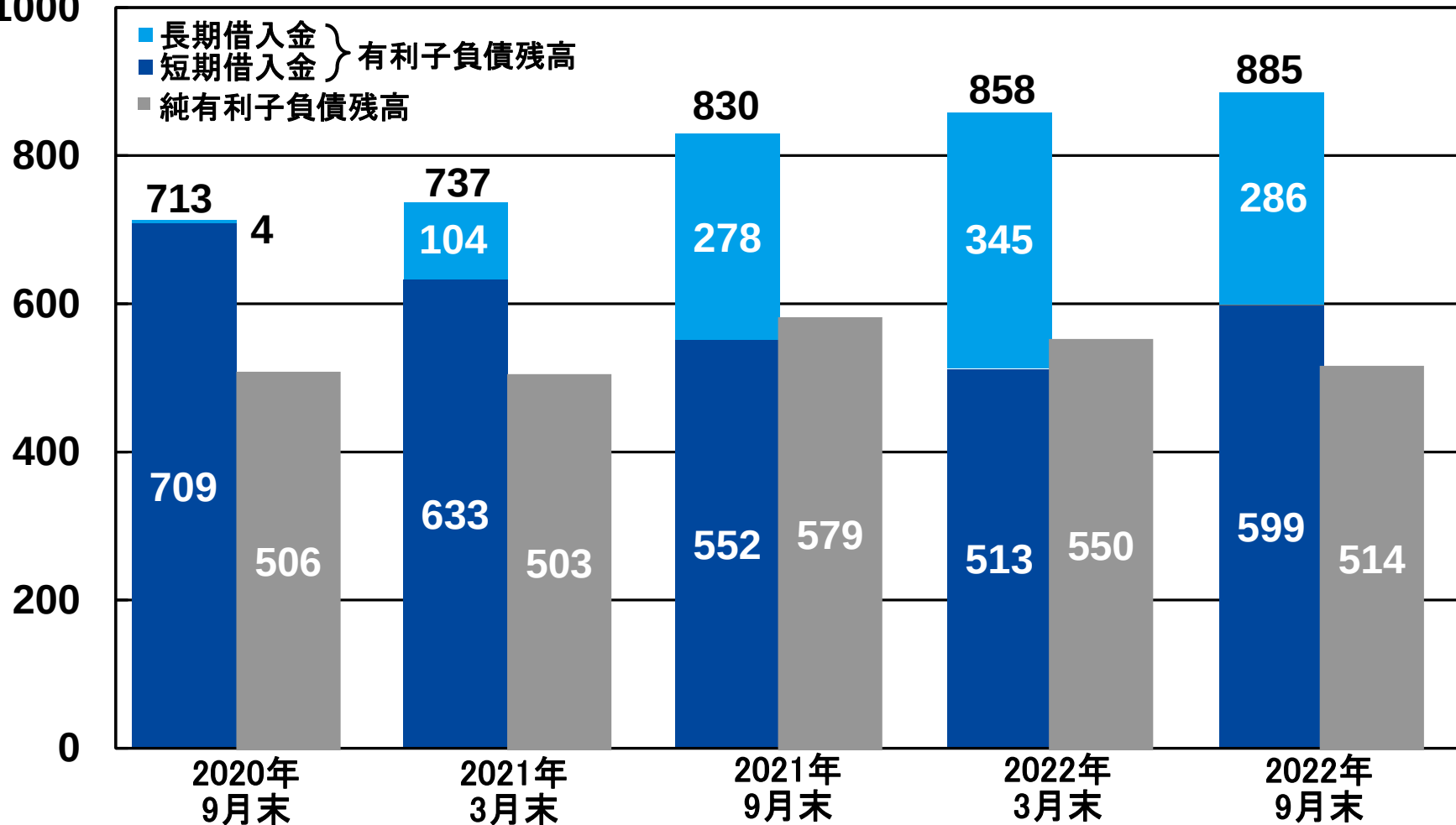
キャッシュ・フロー



有利子負債・純有利子負債残高の推移

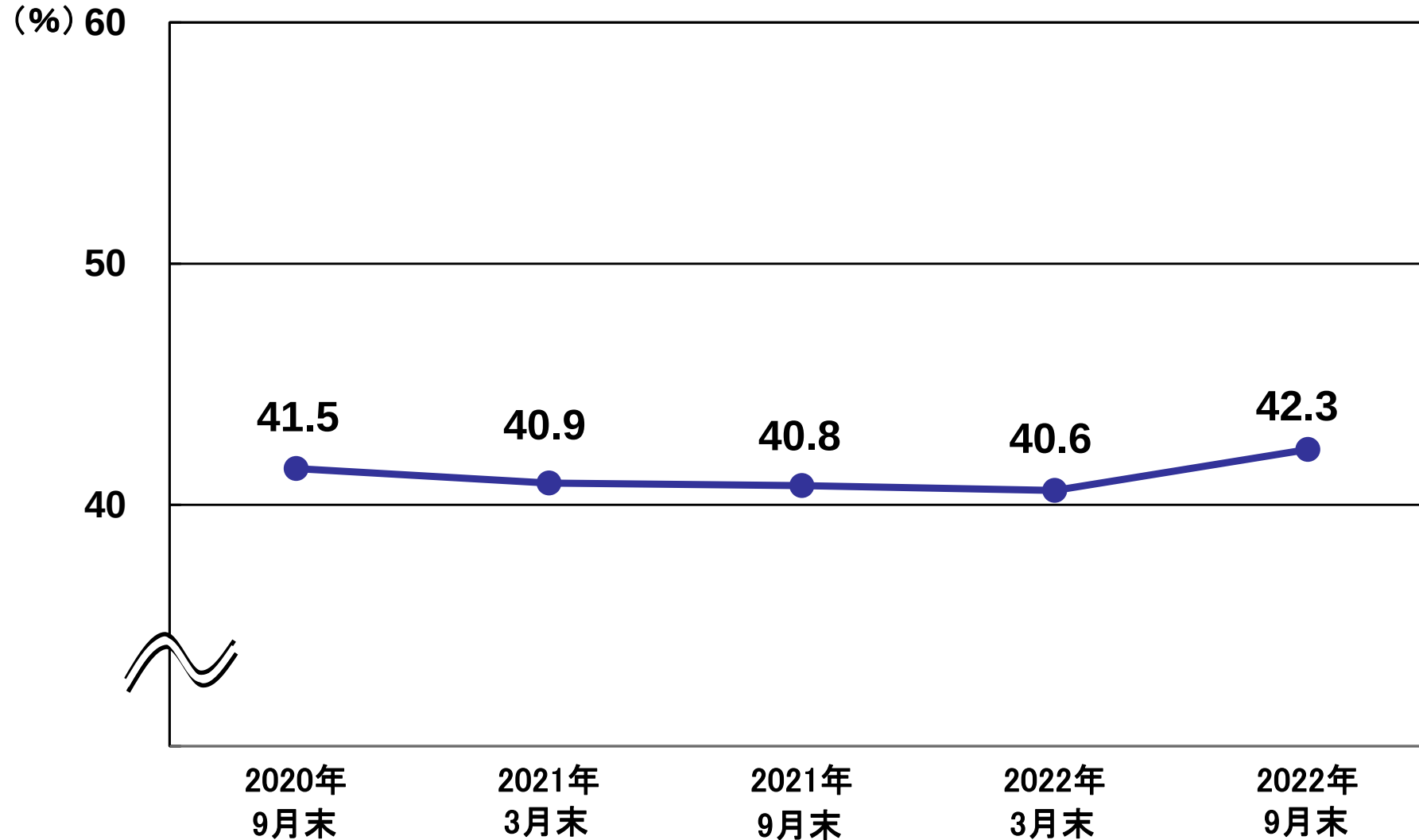
- 有利子負債は、前年度末に対して27億円増加
- 現預金を含めた純有利子負債は、514億円

(億円) 1000



自己資本比率の推移

- 前年度末に対し1.7%増の42.3%





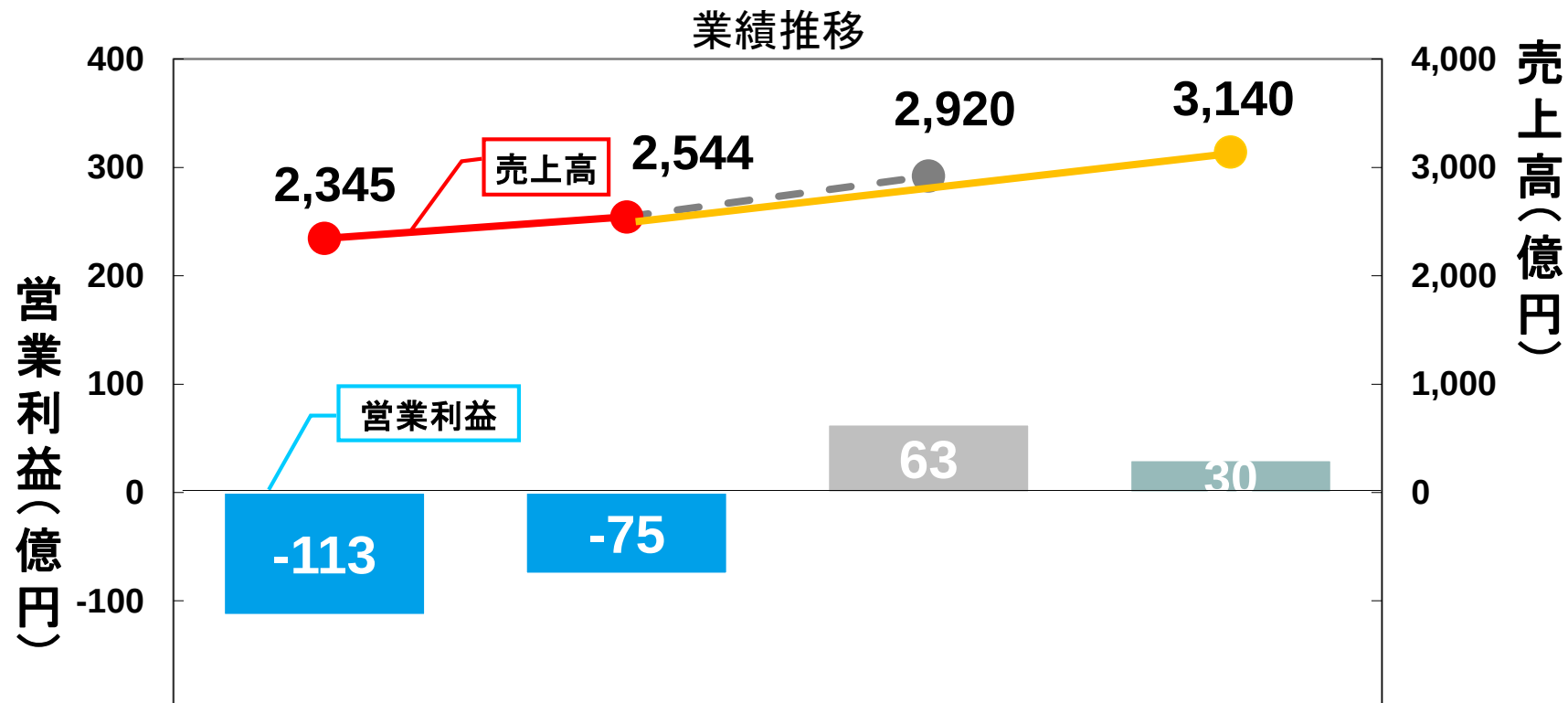
2022年度見通しについて

2022年度連結業績見通しのポイント

1. 売上高は、半導体供給不足や資源の高騰、ウクライナ情勢等の不安定要素により、引き続き不透明な状況となるが、得意先の生産が緩やかに回復することを見込み増収

2. 営業利益は、売上増の影響により黒字に転換

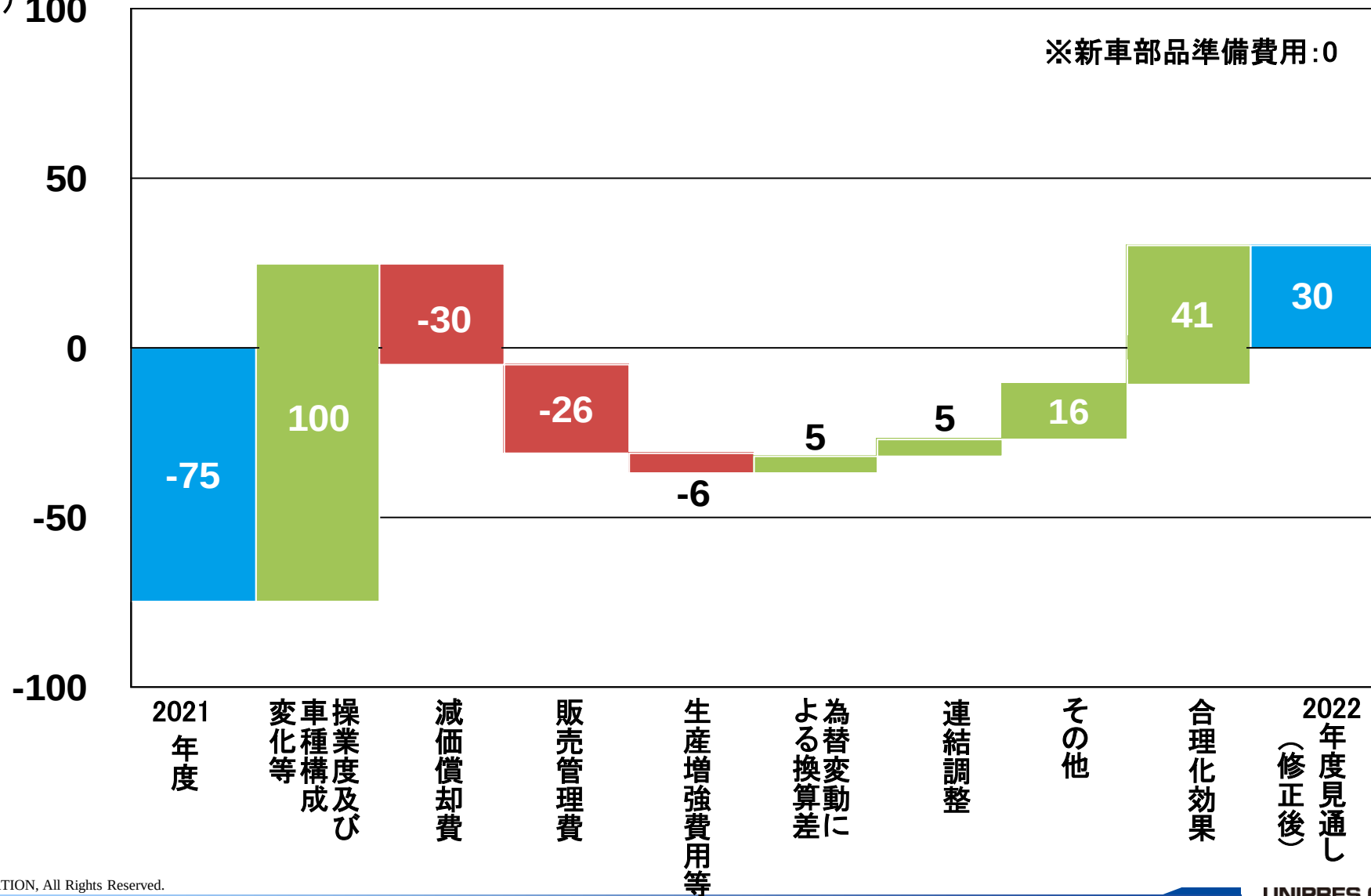
2022年度連結業績見通しサマリー



	20年度	21年度(A)	22年度 当初計画	22年度 修正計画(B)	(B)-(A)
売上高	2,345	2,544	2,920	3,140	+596
営業利益	-113	-75	63	30	+105
経常利益	-91	-47	53	53	+100
親会社株主に帰属 する当期純利益	-176	-79	11	25	+104

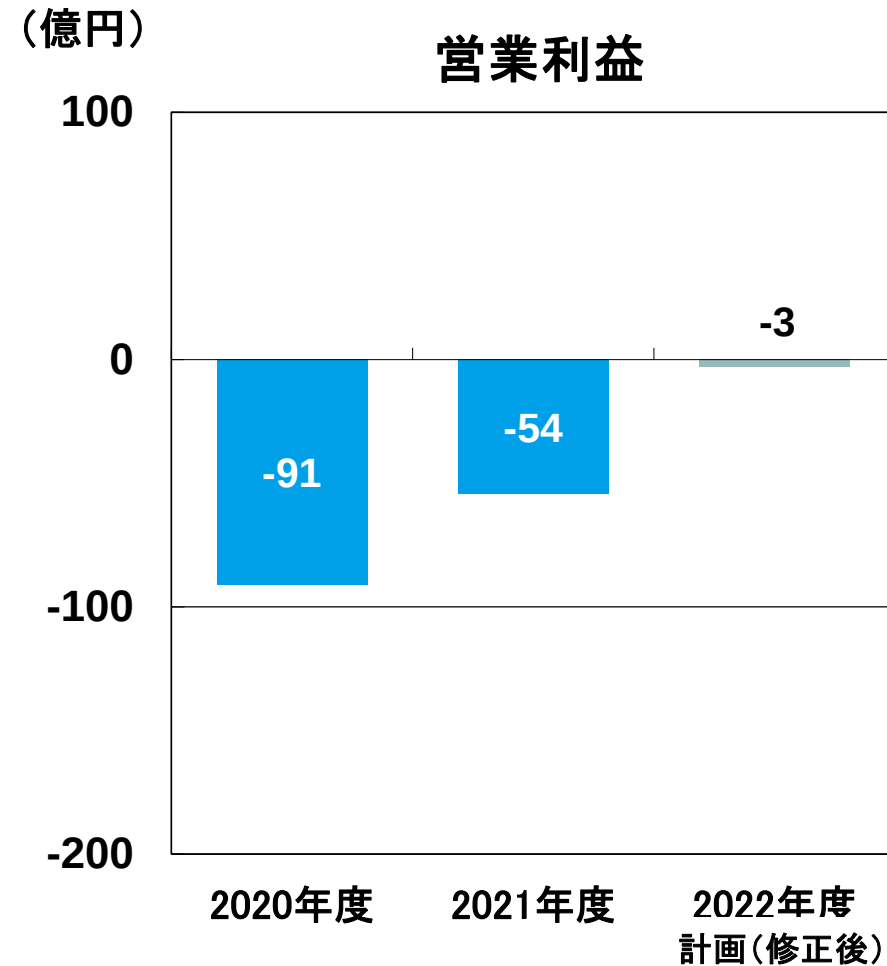
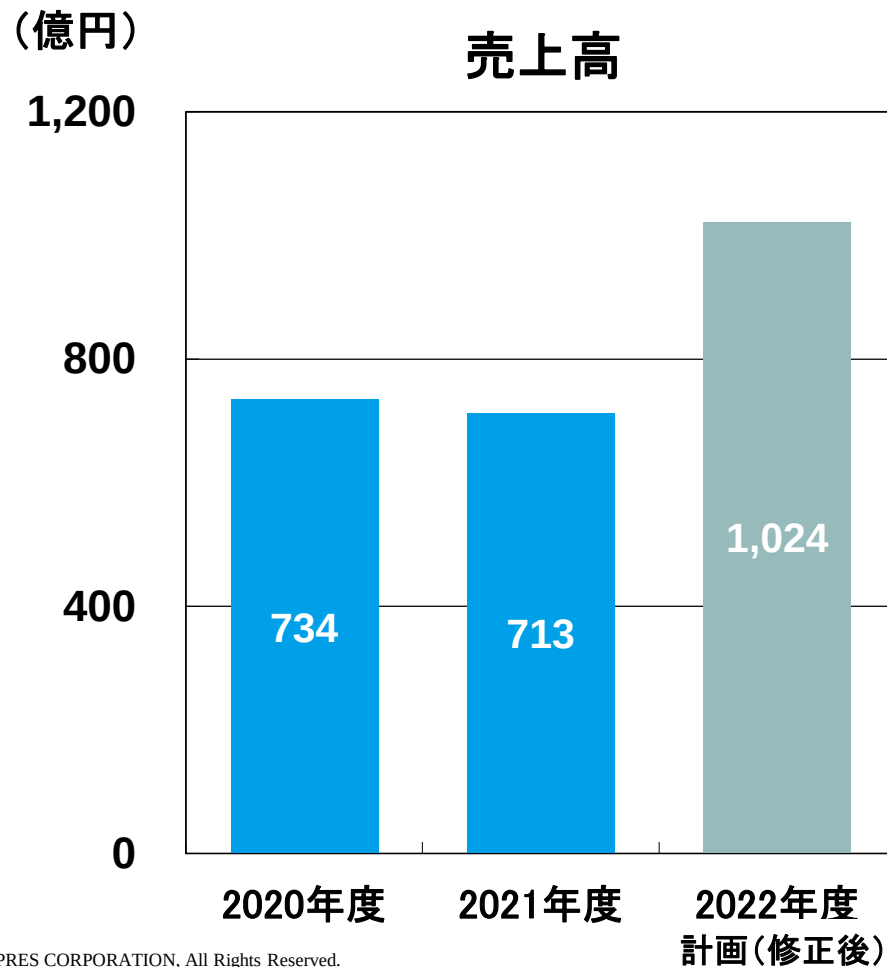
営業利益の増減見通し

(億円) 100



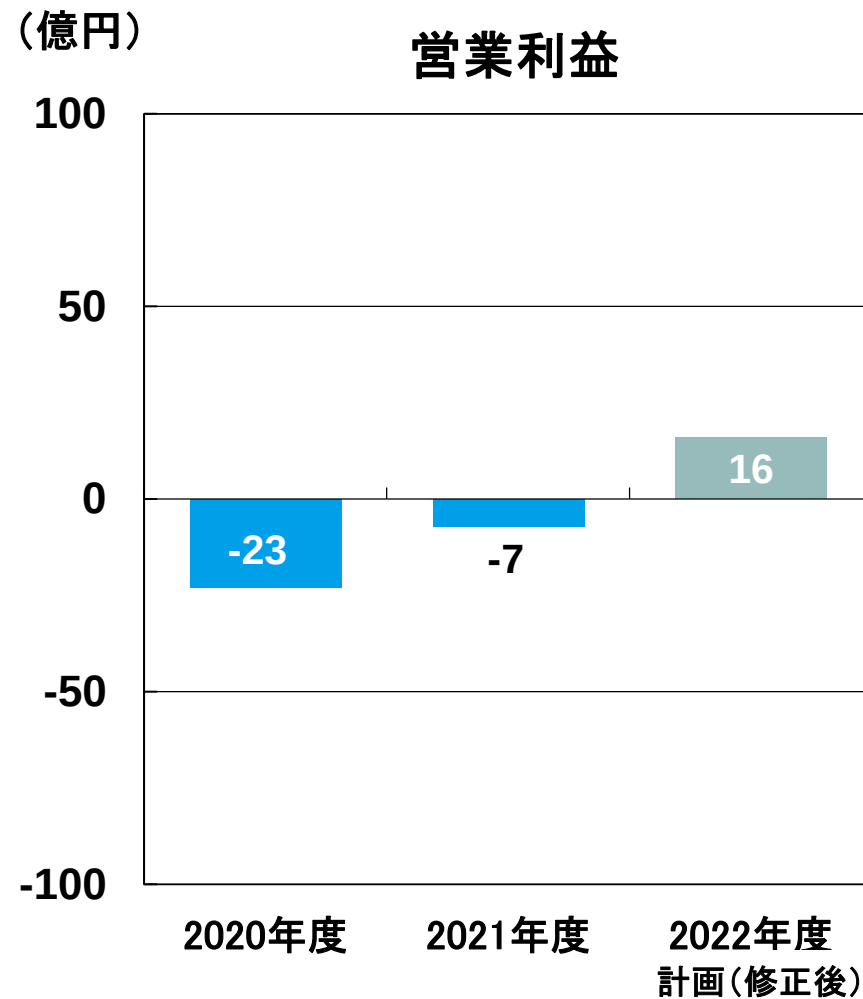
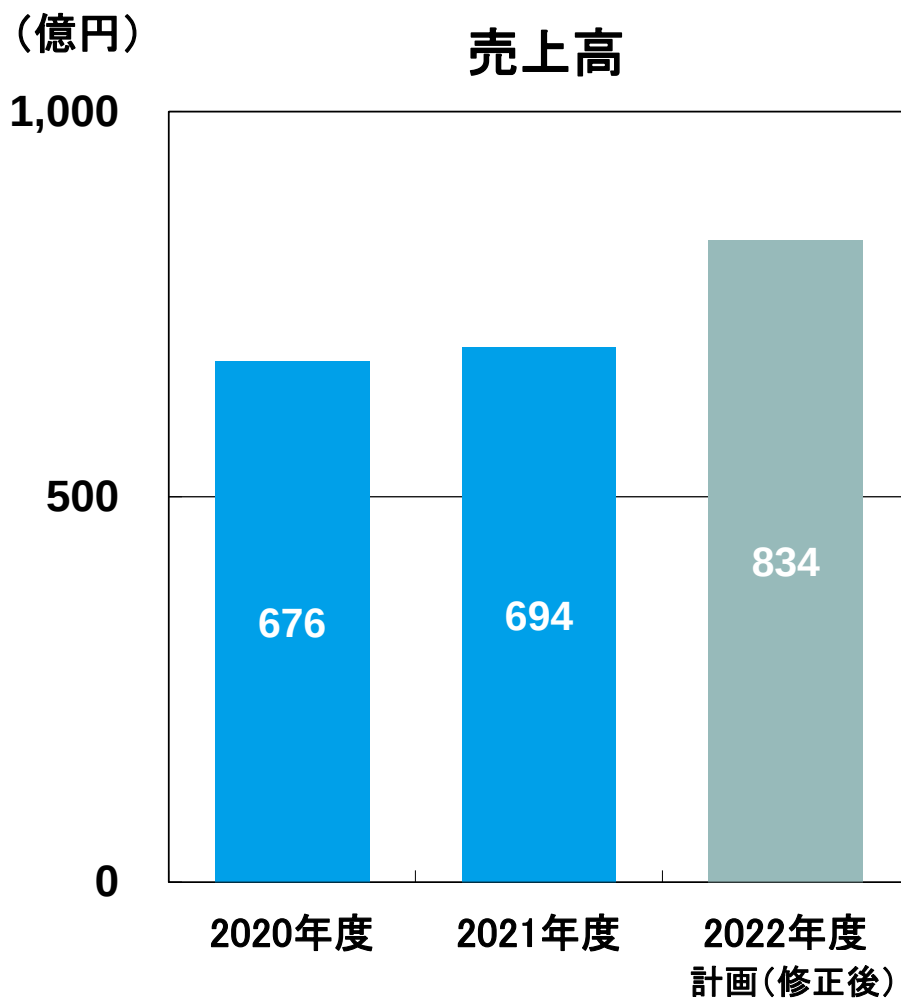
地域別売上高・営業利益(日本)

- 売上高は、得意先の増産影響等により、増収を計画
- 営業利益は、売上増の影響および合理化効果等により、増益を計画



地域別売上高・営業利益(米州)

- 売上高は、為替換算影響等により、増収を計画
- 営業利益は、売上増の影響および合理化効果等により、増益を計画

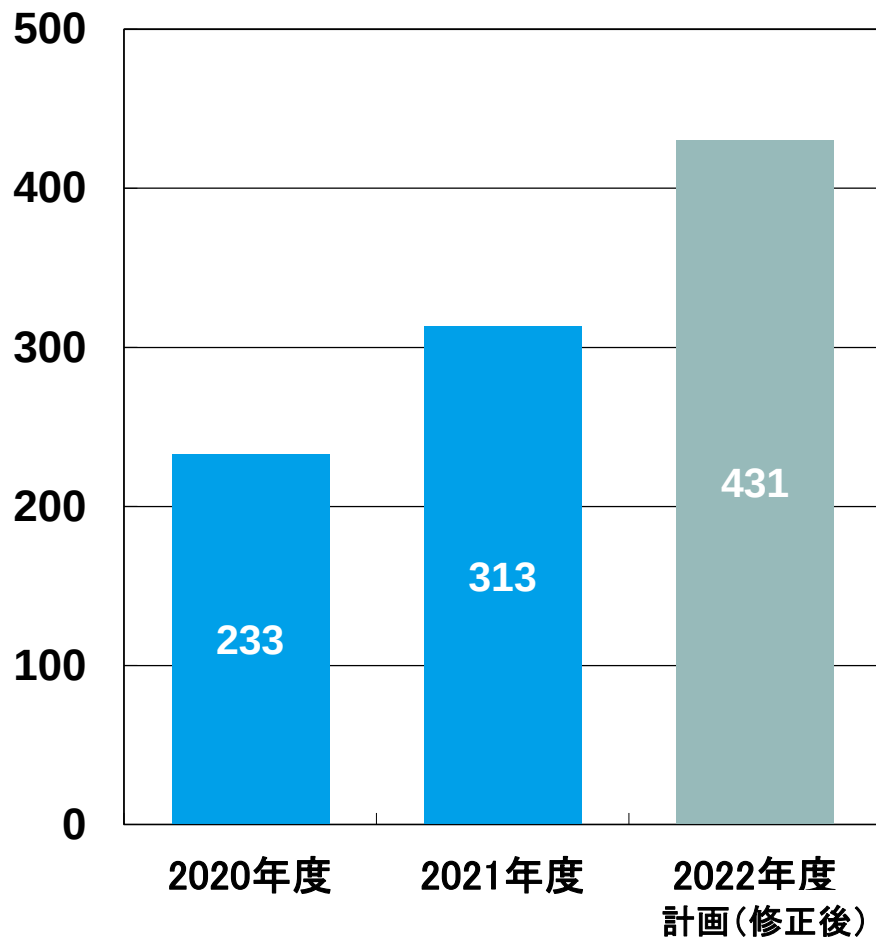


地域別売上高・営業利益(欧州)

- 売上高は、得意先の増産影響等により、増収を計画
- 営業利益は、売上増の影響および合理化効果等により、増益を計画

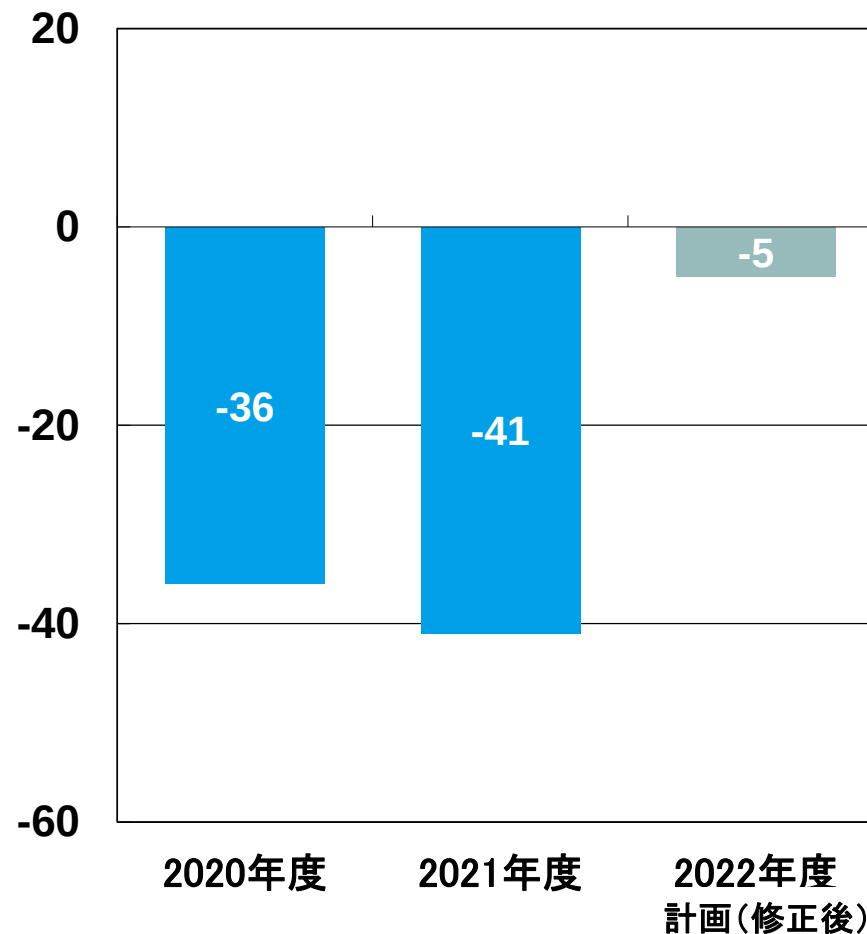
(億円)

売上高



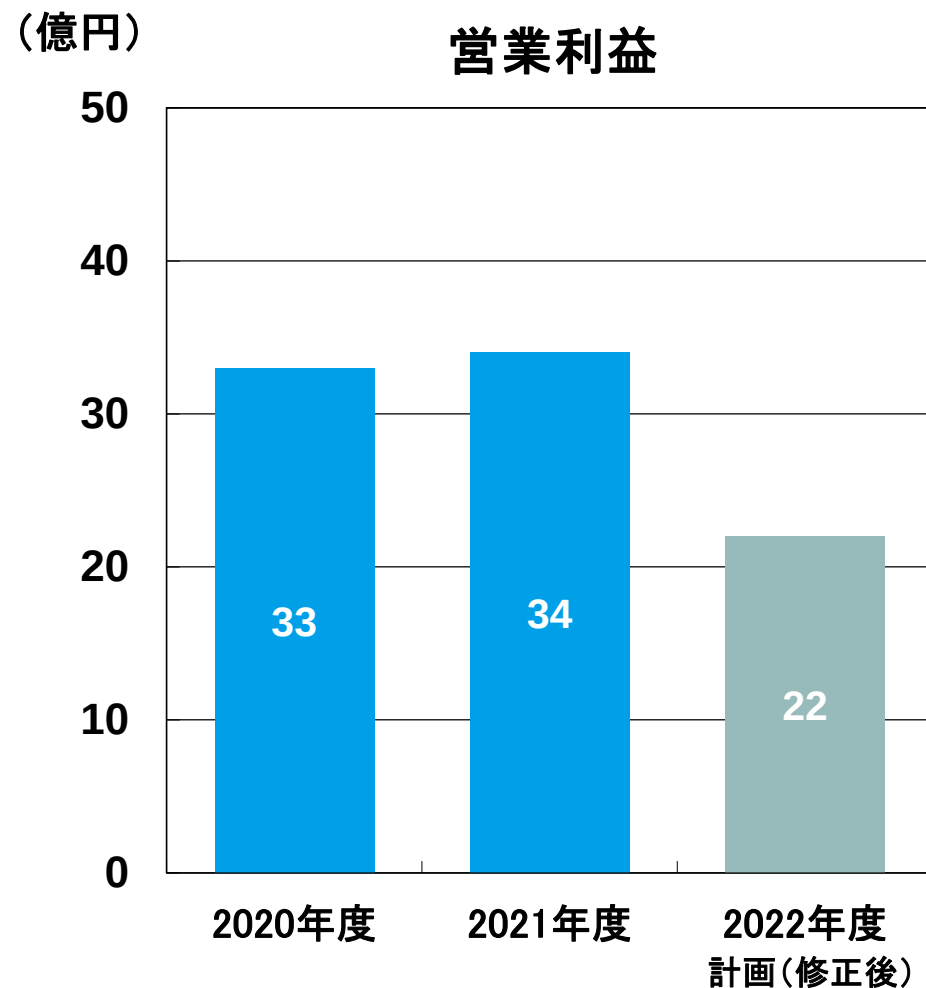
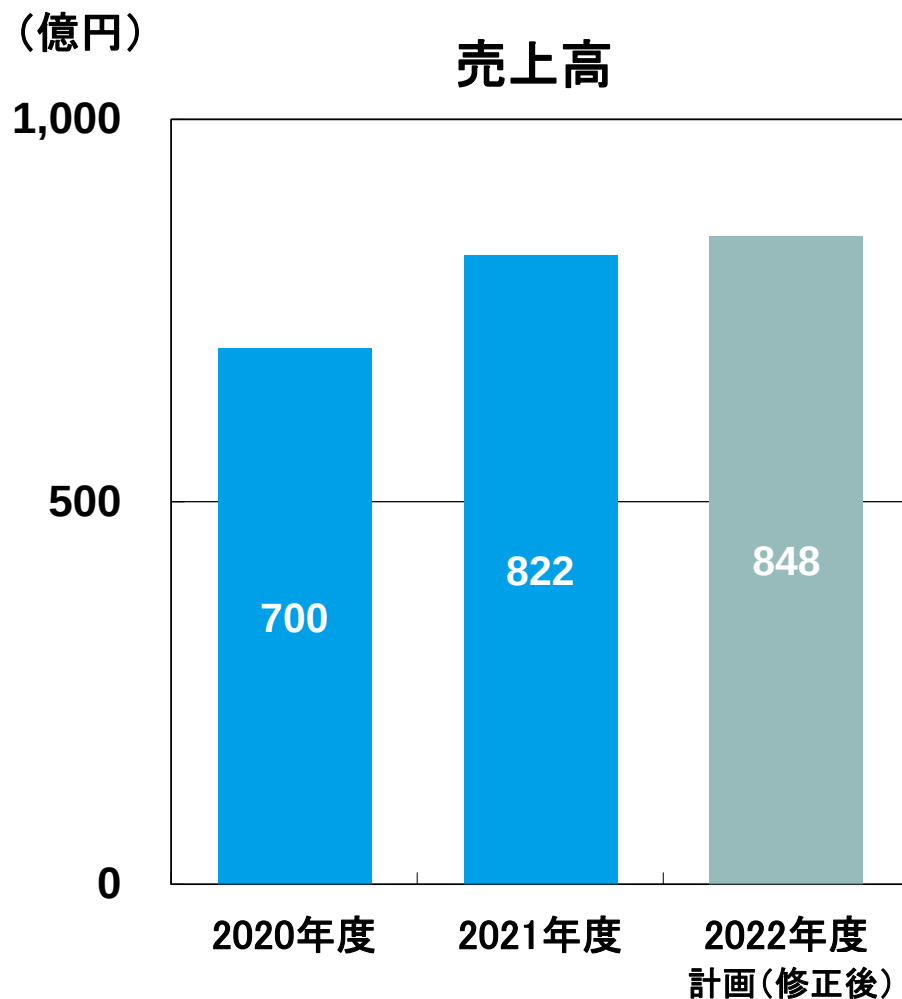
(億円)

営業利益



地域別売上高・営業利益(アジア)

- 売上高は、上海ロックダウン等、減産影響はあったものの為替換算影響等により、増収を計画
- 営業利益は、中国新拠点のコスト負担等もあり、減益を計画

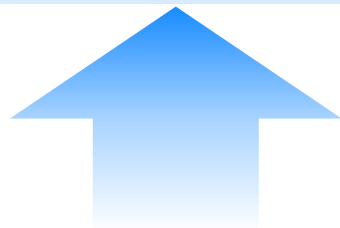




中期経営方針

サステナビリティ経営の実現

「経済的価値」と「社会的価値」の同時創出



【経営理念】

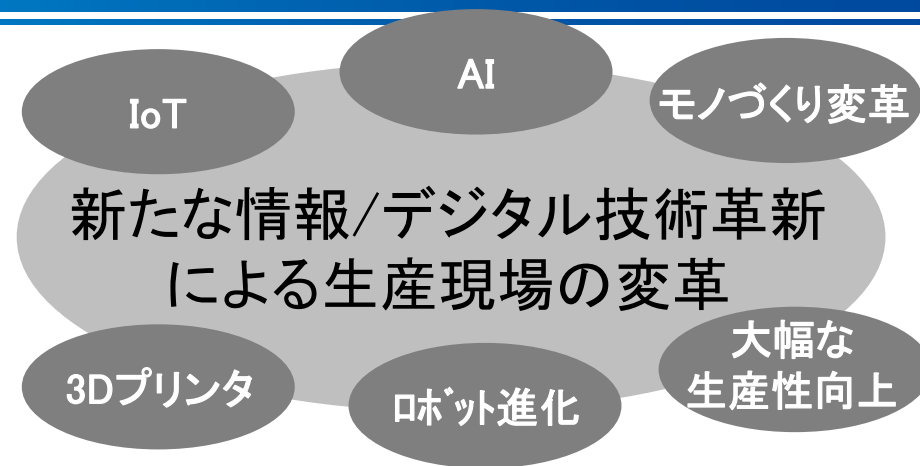
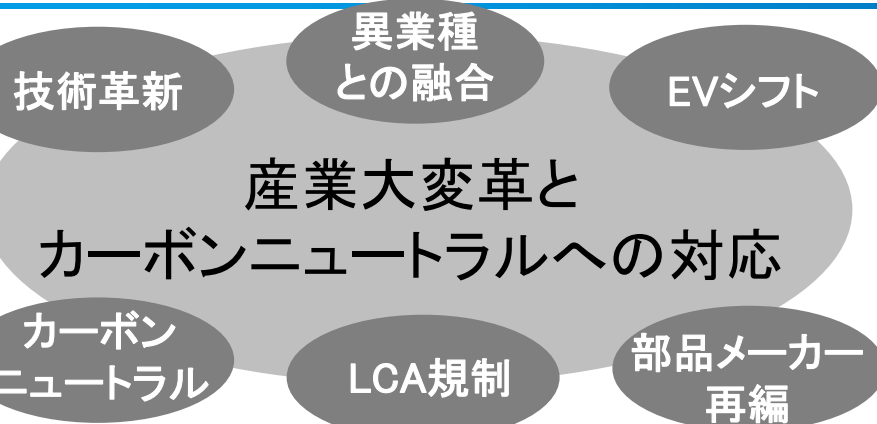
「プレスを究めて、プレスを越える」

【中期経営方針】

グローバルNo.1企業をめざし、UPS活動の推進により
収益力と競争力を強化する

3つの重要な経営課題

自動車産業
を取り巻く
環境変化



強み

お客様の「何とかしたい」を叶える『**解決型ビジネス風土**』と
「任せて良かった」に応える『**付加価値提案力**』

3つの重要な
経営課題

電動化への 対応加速

- ・戦略的技術開発の加速
- ・グローバル拡販の推進
- ・品質の向上

業界トップレベルの 収益力実現

- ・連結・単体の収益力再強化
- ・スマート工場の実現
- ・製品開発力・生産技術開発力の強化

サステナビリティ 経営の推進

- ・ESGの取り組み拡充
- ・カーボンニュートラルへの対応
- ・ガバナンス体制の強化



1. 電動化への対応加速

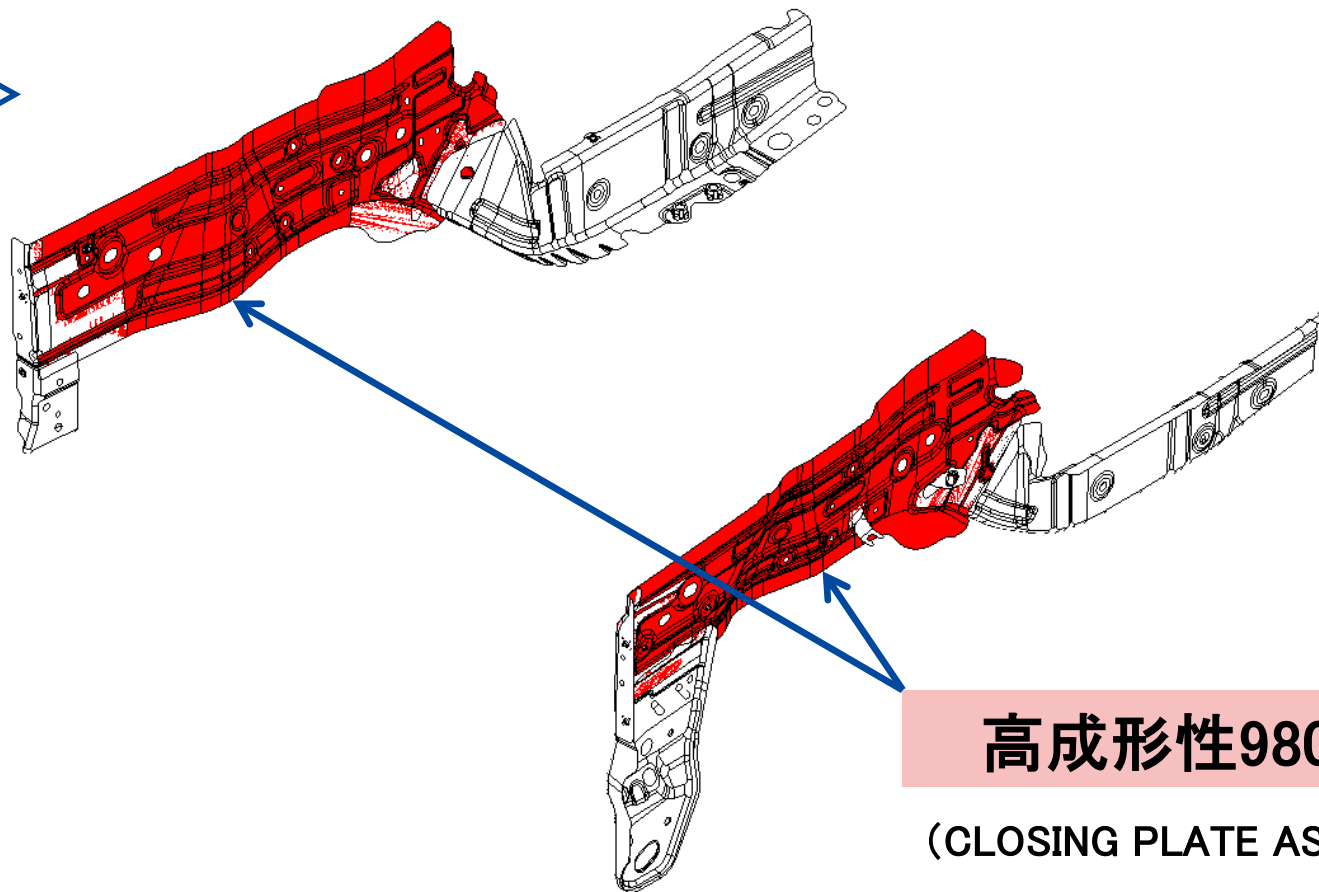


(1) 戦略的技術開発の加速

冷間プレス（高成形性980MPa材成形技術）

- 国内で初めて高成形性980MPa材を下屋骨格部品に採用
- Infiniti QX50（2018年）に採用を開始、その後北米ALTIMA（2019年）、中国TEANA及びSYLPHY（2019年）に拡大、今後、更に新車への採用が拡大される見込み

<対象部品>

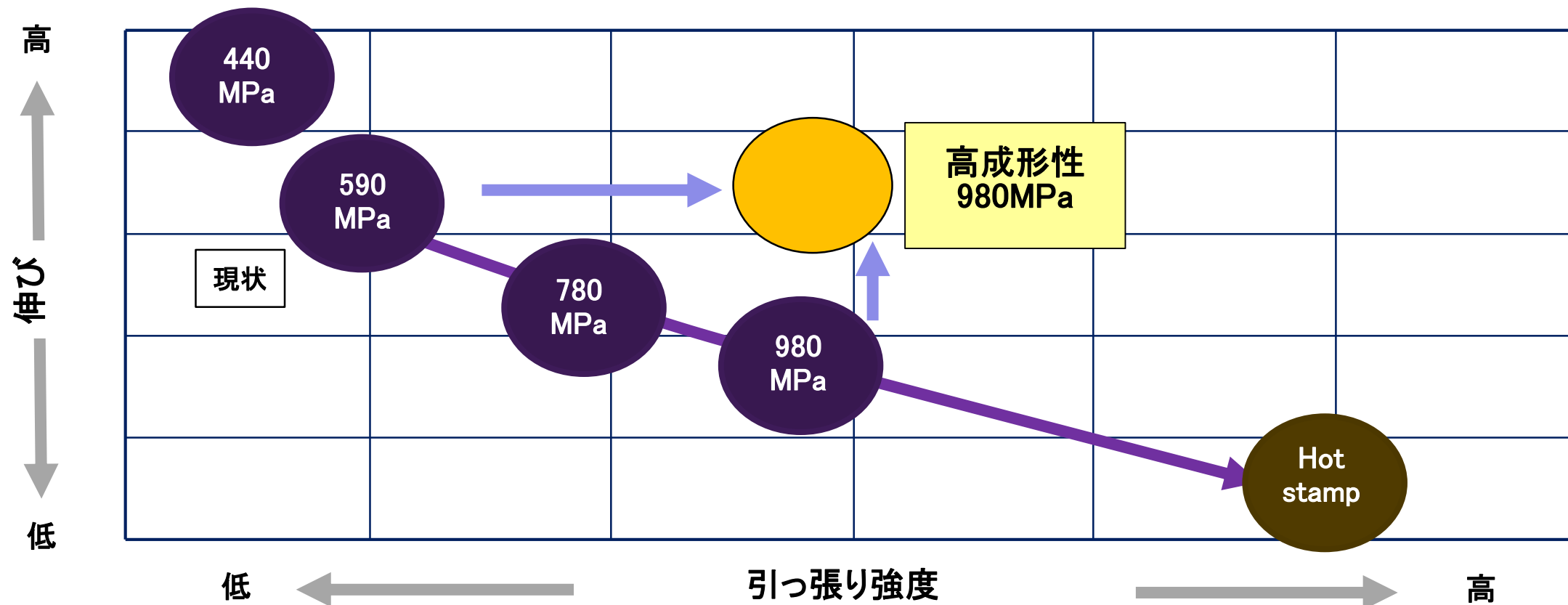


高成形性980MPa材

（CLOSING PLATE ASSY-FR SIDE MBR,R/L）

冷間プレス（高成形性980MPa材成形技術）

590MPa材と同等の加工性を持つ980MPa材採用で、より軽量化を実現



- ・従来の980MPaに比べ、伸びは590MPa材と同等
- ・端部割れは発生しやすいが、トリム加工の工夫や成形技術開発にて解決

ホットスタンプ部品の部分軟化技術開発

赤外線ヒーターを用いた部分軟化工法を開発

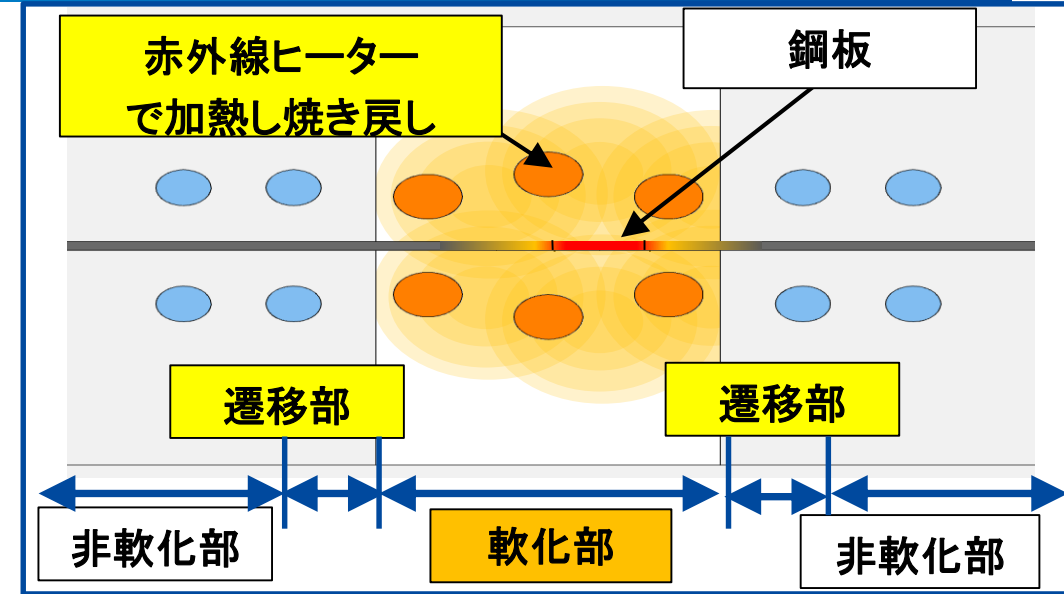
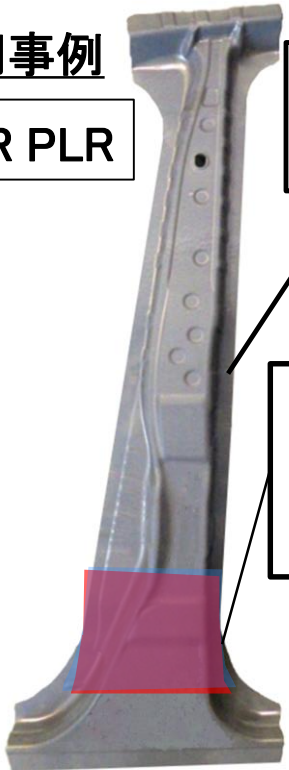
車体骨格部品の衝突性能のコントロールが可能

適用事例

CTR PLR

ホットスタンプ
1500～2000MPa

軟化部
(低強度部)
780～980MPa



■ 工法のポイント

- 赤外線ヒーターを用いて加熱複数力所・広範囲を同時に軟化処理可能
- コールド超ハイテン部品にも適用可能
- 軟化部強度: 780Mpa級まで軟化可能、強度遷移部: 20mm以下に抑制可能
- 特許登録(日本・米国)済み、欧州において特許出願中
- プロジェクト適用は検討中



(2) グローバル拡販の推進

2021年度 新車部品の立上げ実績と今後の見通し

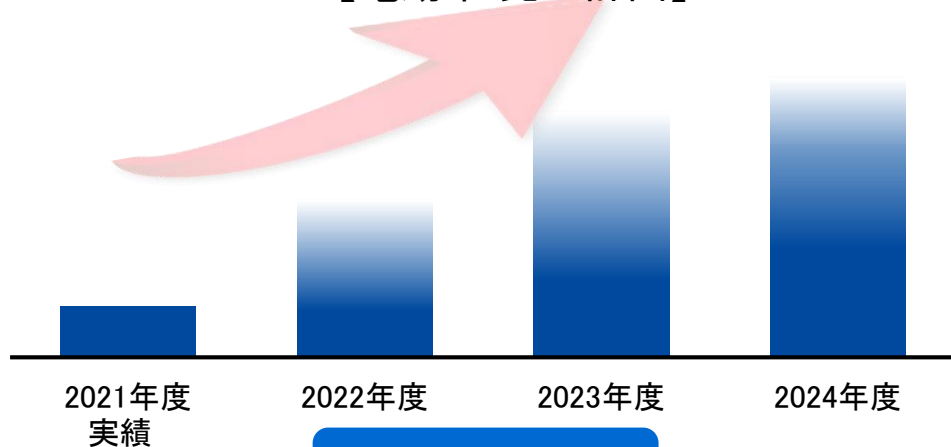
★ : 電動車 ★ : ICE車

		2021	2022	2023	2024
日本		★ ★ ★ ★ ★	★ ★ ★ ★ ★	★ ★	★ ★ ★ ★
米州		★ ★ ★ ★	★ ★ ★	★ ★	★ ★ ★ ★ ★
欧州		★ ★	★ ★	★	★ ★ ★
アジア	中国	★ ★ ★ ★	★ ★ ★ ★	—	★ ★
	タイ・インド・ インドネシア	★ ★ ★	★ ★ ★ ★	★	★ ★
計		18	18	6	16

電動車のグローバル受注状況

ハイテン・ホットスタンプ比率の高い電動車のグローバルでの受注拡大に伴い、売上も拡大

【電動車 売上計画】



e-Power



日産「セレナ」



日産「キャッシュカイ」



日産「キックス」



日産「シルフィ」



日産「ノート」



日産「エクストレイル」

EV・HEV(日産)



日産「リーフ」



日産「アリア」



日産「e-NV200」



日産「サクラ」



日産「ジューク」



Venucia「T60」



Venucia「D60」

EV・HEV・PHEV(日産除く)



ホンダ「Honda e」



マツダ「MX-30」



ルノー「メガーヌ」



三菱「アウトランダー」



三菱「eKクロス EV」

コモンモジュールファミリーCセグメント車 受注状況

ルノー・日産・三菱 共通プラットフォーム車向け部品をグローバルに受注し、更に拡大

赤字:今年度、生産開始した車種

イギリス

(ルノー/日産)

- 「キャッシュカイ (HEV/e-POWER)」
- 「オーストラル (HEV)」

中国

(日産)

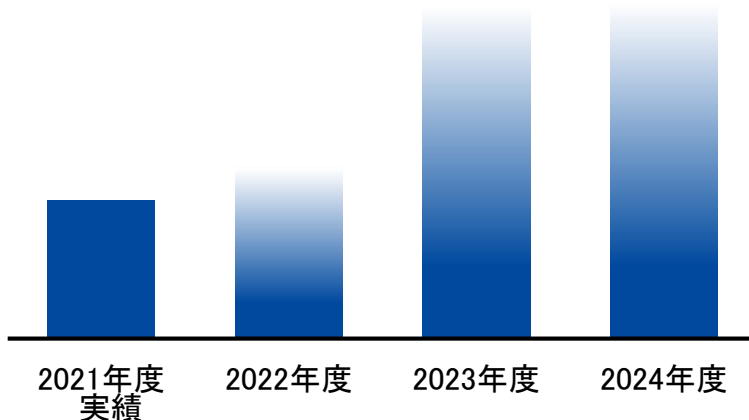
- 「エクストレイル(HEV)」

アメリカ

(日産)

- 「ローグ (ICE)」

【Cセグメント車 売上計画】



日本

(日産/三菱)

- 「ローグ (ICE)」(北米向け)
- 「エクストレイル (e-POWER)」(日本向け)
- 「エクストレイル (HEV/e-POWER)」(欧州向け)
- 「アウトランダー (ICE/PHEV)」

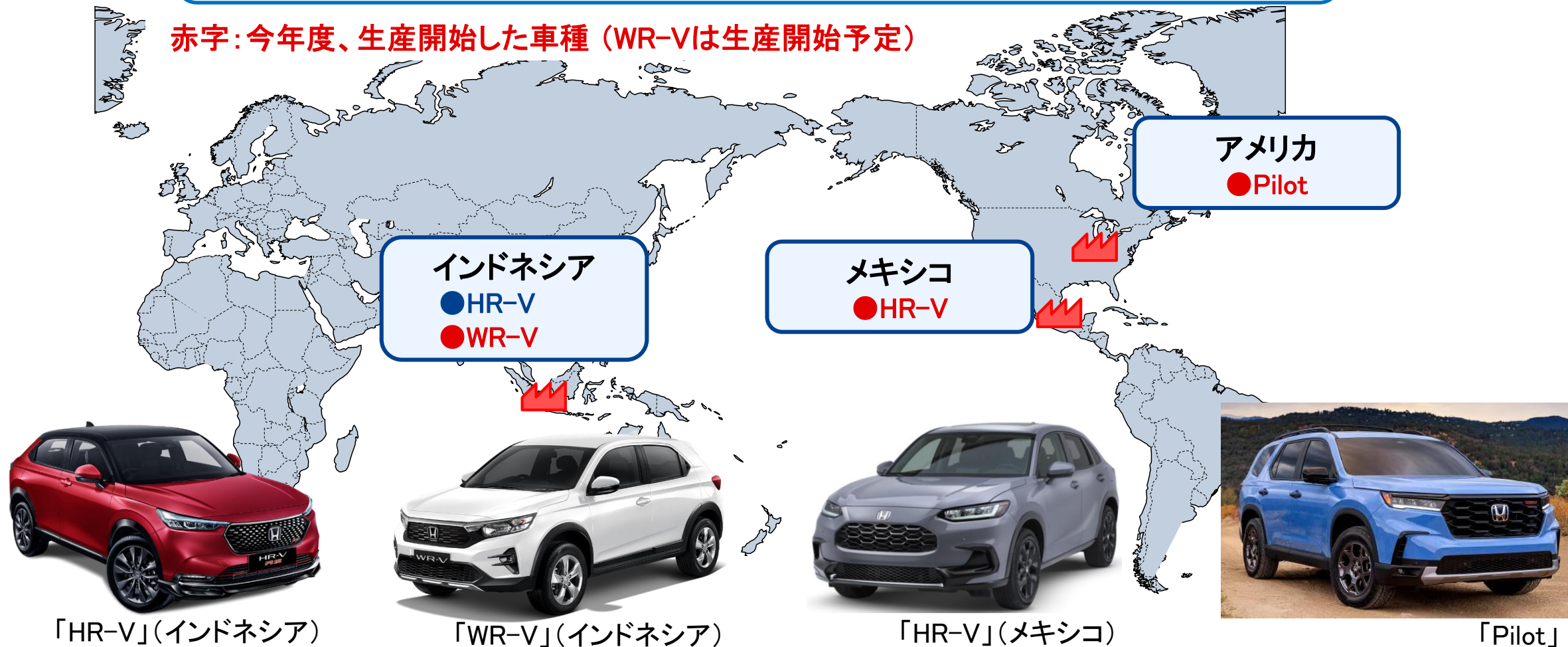


「エクストレイル e-POWER」

ホンダ車 受注状況

- ・インドネシア・メキシコで「HR-V」、アメリカで「Pilot」向け部品の生産を開始
- ・インドネシアで「WR-V」向け部品を受注

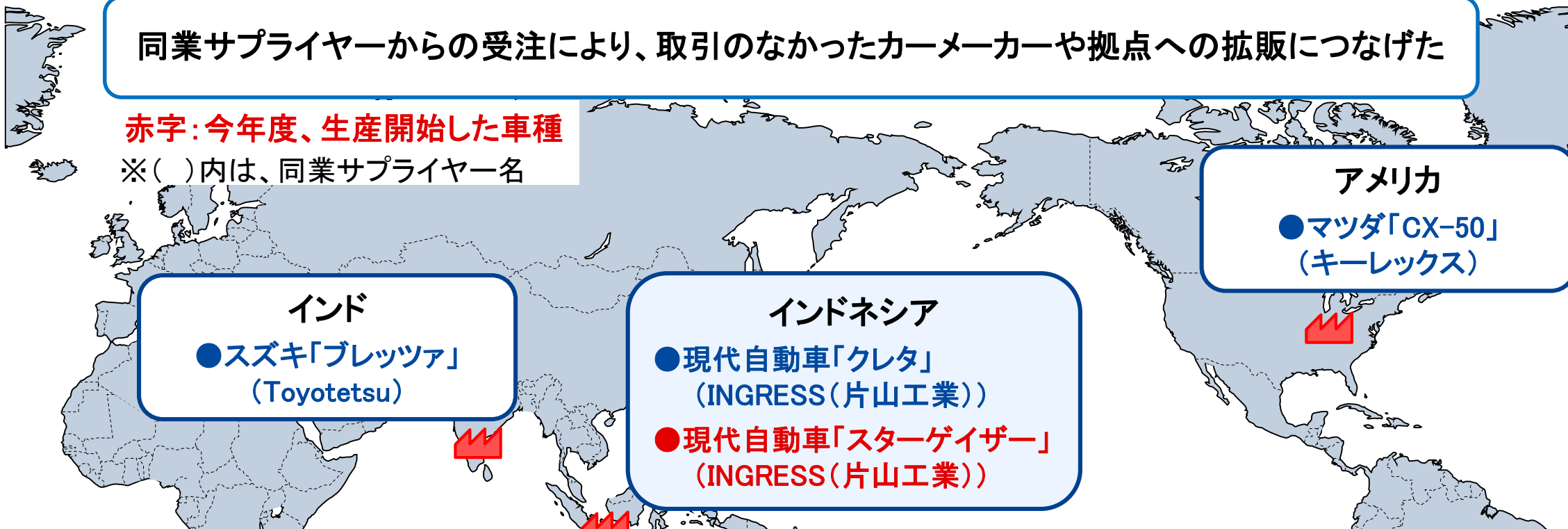
赤字：今年度、生産開始した車種（WR-Vは生産開始予定）



新規先への拡販戦略

同業サプライヤーからの受注により、取引のなかったカーメーカーや拠点への拡販につなげた

赤字:今年度、生産開始した車種
※()内は、同業サプライヤー名



スズキ「ブレツツア」



現代自動車「クレタ」



現代自動車「スターゲイザー」



マツダ「CX-50」

マツダ株式会社の利用合意を受けているので、他への転載、転用を一切禁ずる。

ユニプレス武漢の本格稼働

中国6番目の生産拠点であるユニプレス武漢が2022年9月に本格稼働

日・米・欧の主要自動車メーカーが集積する武漢地区でビジネス拡大を図る



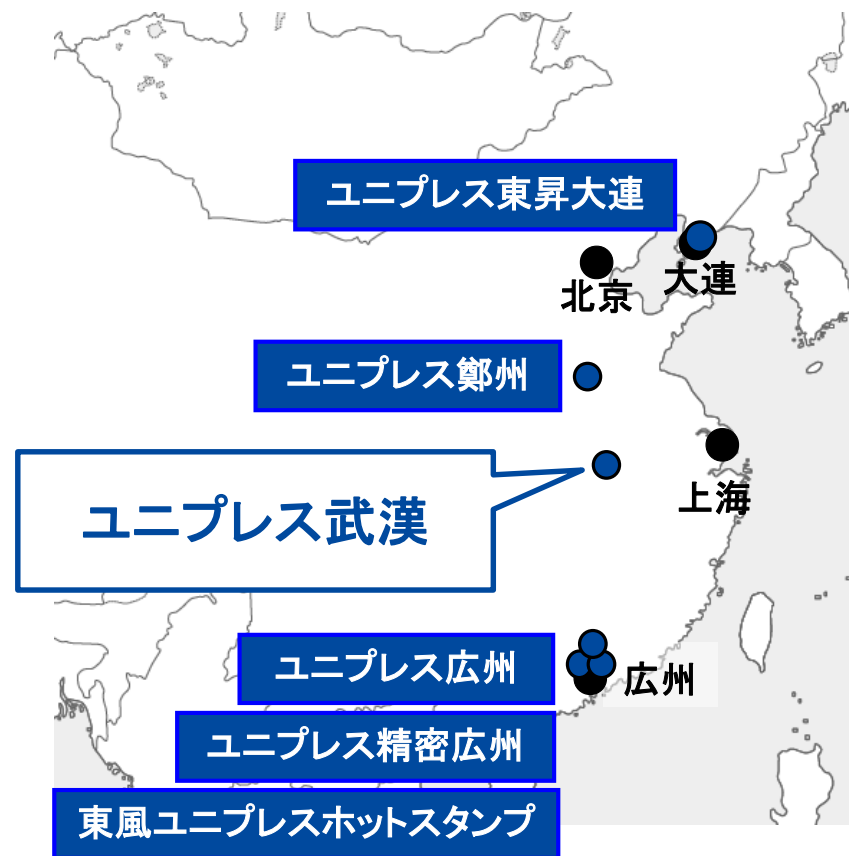
(プレスエリア)



(組立エリア)



(建屋外観)





(3) 品質の向上

車体部品事業・トランスミッション部品事業において、品質や技術等に関する賞を受賞

＜2022年度上期 得意先からの受賞歴＞

受賞拠点	授与得意先	賞名
ユニプレス	日産自動車	Global Quality Award
ユニプレス	ジャトコ	グローバル特別賞
ユニプレス日本	日産自動車	優良品質感謝状
ユニプレスアメリカ	北米日産	Safe Launch Award
ユニプレスメキシコ	米州日産グループ	Regional After Sales Award
ユニプレス精密広州	アイシン中国	原価改善優秀賞

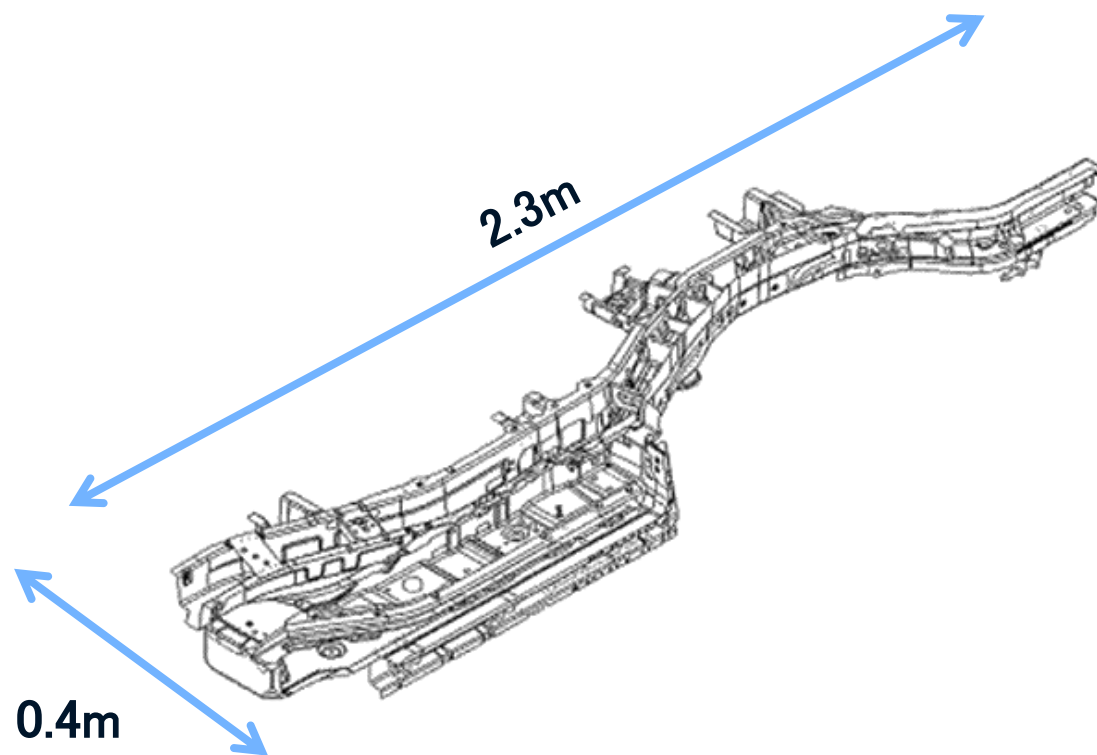




2. 業界トップレベルの収益力実現

スマート工場の実現(ユニプレス九州)

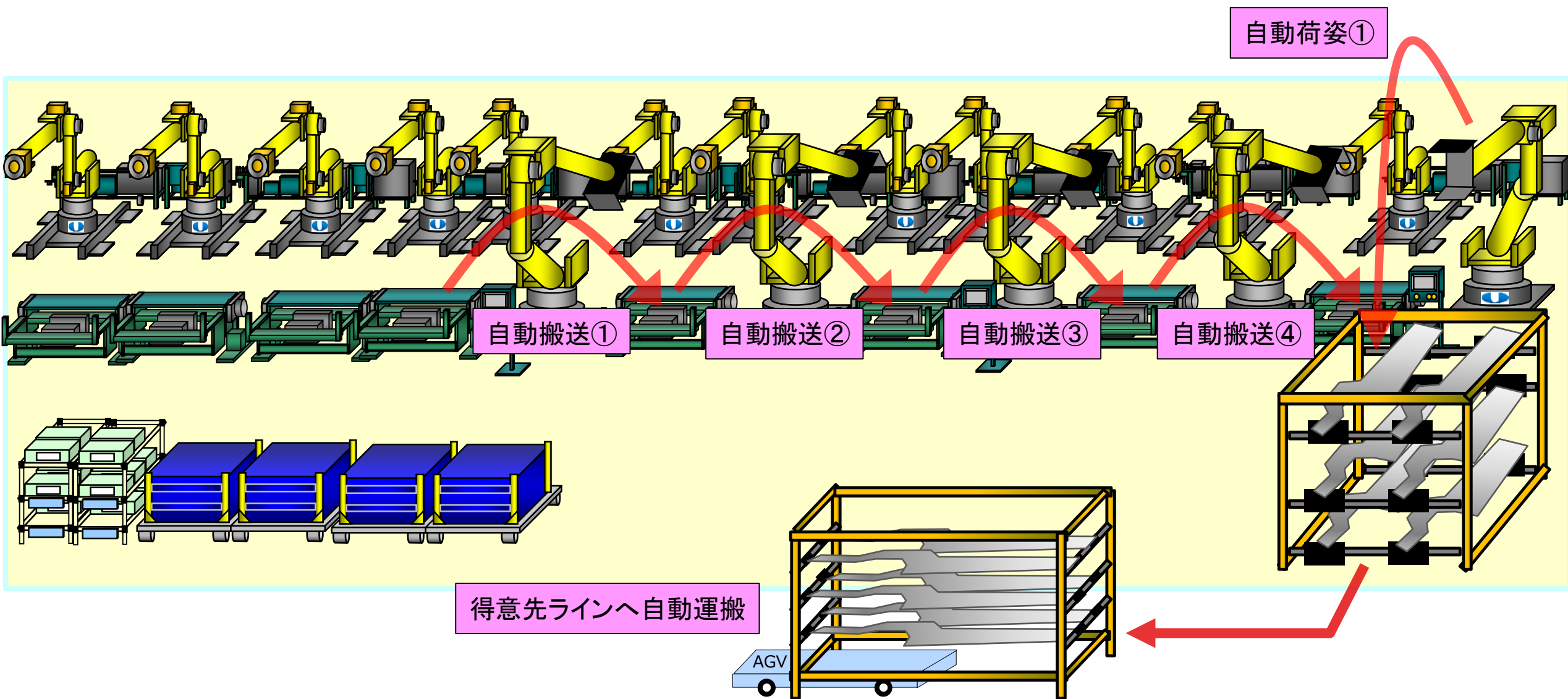
大型部品(3バリエーション)を順序生産(アクチュアル生産)するラインにおいて、
自動搬送及び自動荷姿を実現し、40%の省人化(20名→12名)を実現



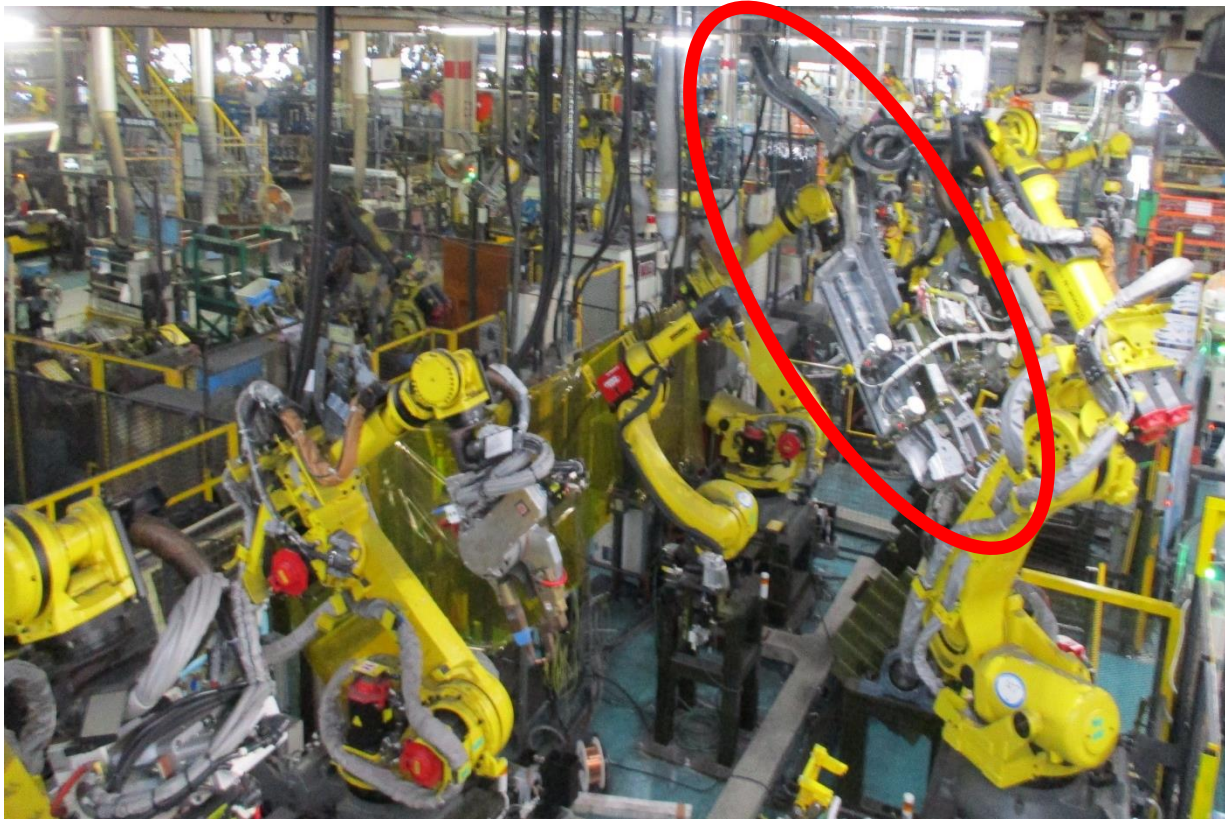
【リアサイドメンバー 3バリエーション】

Var.	重量
A type	26.8kg
B type	31.3kg
C type	26.2kg

スマート工場の実現(ユニプレス九州)



自動搬送



自動荷姿





3.サステナビリティ経営の推進

マテリアリティおよび中長期目標(2030年度)

	マテリアリティ	目標・ターゲット
E	気候変動対策	2030年度事業活動で排出するCO ₂ 排出量30%削減(2018年度基点)
	環境貢献製品の開発	<車体プレス部品事業> ・更なる軽量化部品の開発および量産車への採用 <トランスミッション部品事業> ・電動車部品の開発および量産車への採用
	資源の有効活用	産業廃棄物リサイクル率60%以上〔ユニプレス/ユニプレス技術研究所〕
S	製品品質向上	納入不良ゼロ
	人権尊重	人権侵害事例発生件数ゼロ
	ダイバーシティの推進	①女性管理職の比率拡大(7%)〔ユニプレス/ユニプレス技術研究所〕 ②海外拠点の上級管理職における現地従業員の比率拡大(60%)〔海外〕
	サプライチェーン・マネジメント	【持続可能な調達の推進】環境・社会に関する高リスクサプライヤーゼロ
G	コーポレート・ガバナンスの強化	①取締役会の実効性向上に向けた施策の継続的な実施 ②重大な法令違反発生事件件数ゼロ ③腐敗防止違反事例発生件数ゼロ

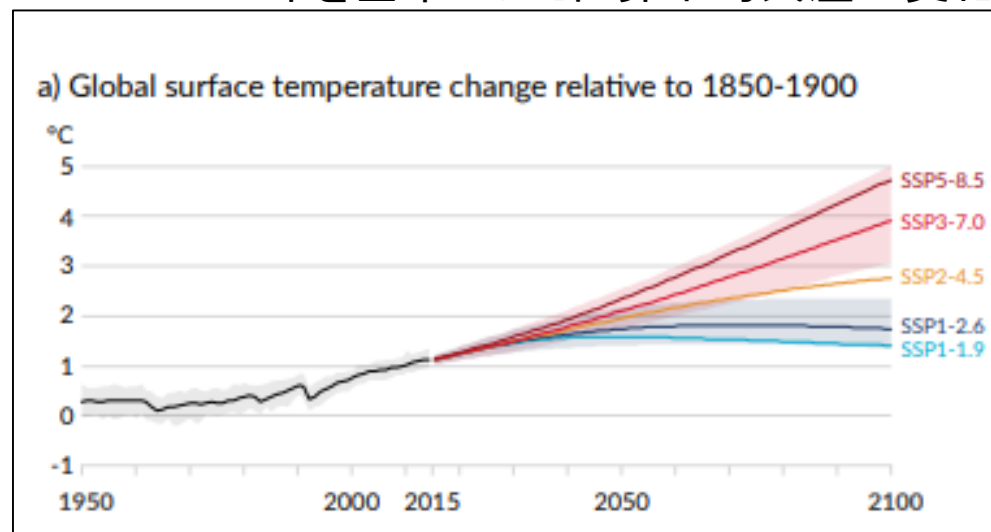
※マテリアリティ・目標は見直しの可能性あり

- 2021年度TCFD提言への賛同を表明
- 2022年6月にTCFDレポートを初発行

気候変動によるリスクと機会が与える財務影響について、
ガバナンス、戦略、リスク管理、指標と目標の観点から情報開示

- ・2°C・4°Cシナリオの分析による
リスクと機会の洗い出し
- ・財務上の影響度による評価
- ・対応策決定

1850～1900年を基準とした世界平均気温の変化



2022年6月、SOMPOアセットマネジメント株式会社が設定する
「SOMPOサステナビリティ・インデックス」の構成銘柄に
2年連続選定されました



■ SOMPOサステナビリティ・インデックスとは

- ・ ESGの取り組みに優れる300銘柄から構成され、毎年見直しが行われる。
- ・ SOMPOアセットマネジメント株式会社が独自のアクティブ・インデックス。
- ・ 同社の機関投資家向けの責任投資プロダクト「サステナブル運用」に活用される。

サステナビリティレポート2022発行

当社のサステナビリティに関する取り組みをまとめた
「サステナビリティレポート2022」を発行



ステークホルダーの皆さまへの分かりやすい情報開示を目的として、
情報をより充実させ、刷新しました。

サステナビリティレポートは当社ホームページからご覧いただけます。 <https://www.unipres.co.jp/csr/report>



「IR情報メール配信サービス」のご案内

ユニプレスの最新情報をメールでお知らせします。ぜひご登録下さい。

スマートフォンから

二次元コードを
読み取って
登録



パソコンから

ユニプレス
WEBサイト
トップページの
バナーをクリック



一覧を見る >> ピックアップ

» 株主総会・配当・株主優待等

» 株価情報

» IR情報メール配信

» お問い合わせ

(円)

	2021年度 上期		2022年度 上期		2022年度 見通し前提	
	期中平均	期末	期中平均	期末	当初	通期
米ドル	110.13	111.95	135.31	144.81	115.00	136.99
英ポンド	150.79	153.22	159.89	165.78	150.00	161.01
ユーロ	130.47	131.63	135.14	142.65	130.00	137.21
ペソ	5.36	5.58	6.16	6.78	5.50	6.53
人民元	16.77	17.12	19.14	20.39	18.00	19.61
ルピー	1.50	1.52	1.72	1.78	1.50	1.73
バーツ	3.50	3.45	3.67	3.87	3.50	3.74
ルピア	0.0076	0.0076	0.0086	0.0092	0.0080	0.0089

資料取り扱い上の注意

このプレゼンテーション資料で述べられている将来の当社に関する見通しは、現時点で当社が知りうる情報をもとに作成されたものです。

あくまでも現時点での将来予想であり、リスクや不確定要素を含んでいるため、実際の業績はかかる予想と大きく異なる結果となることがあります。

それらのリスクや不確定要素のうち、主なものは以下のとおりですが、これらに限られるものではありません。

- ・ 主要市場（日本、米州、欧州、アジア等）の経済状況、消費動向、及び自動車業界得意先メーカー各社の業況・戦略等に伴う製品需給の急激な変動
- ・ 原油価格や鋼材価格の高騰に伴う当社製品製造コストへの影響
- ・ 為替相場の大幅な変動
- ・ 金融・資本市場における金利等の変動 など